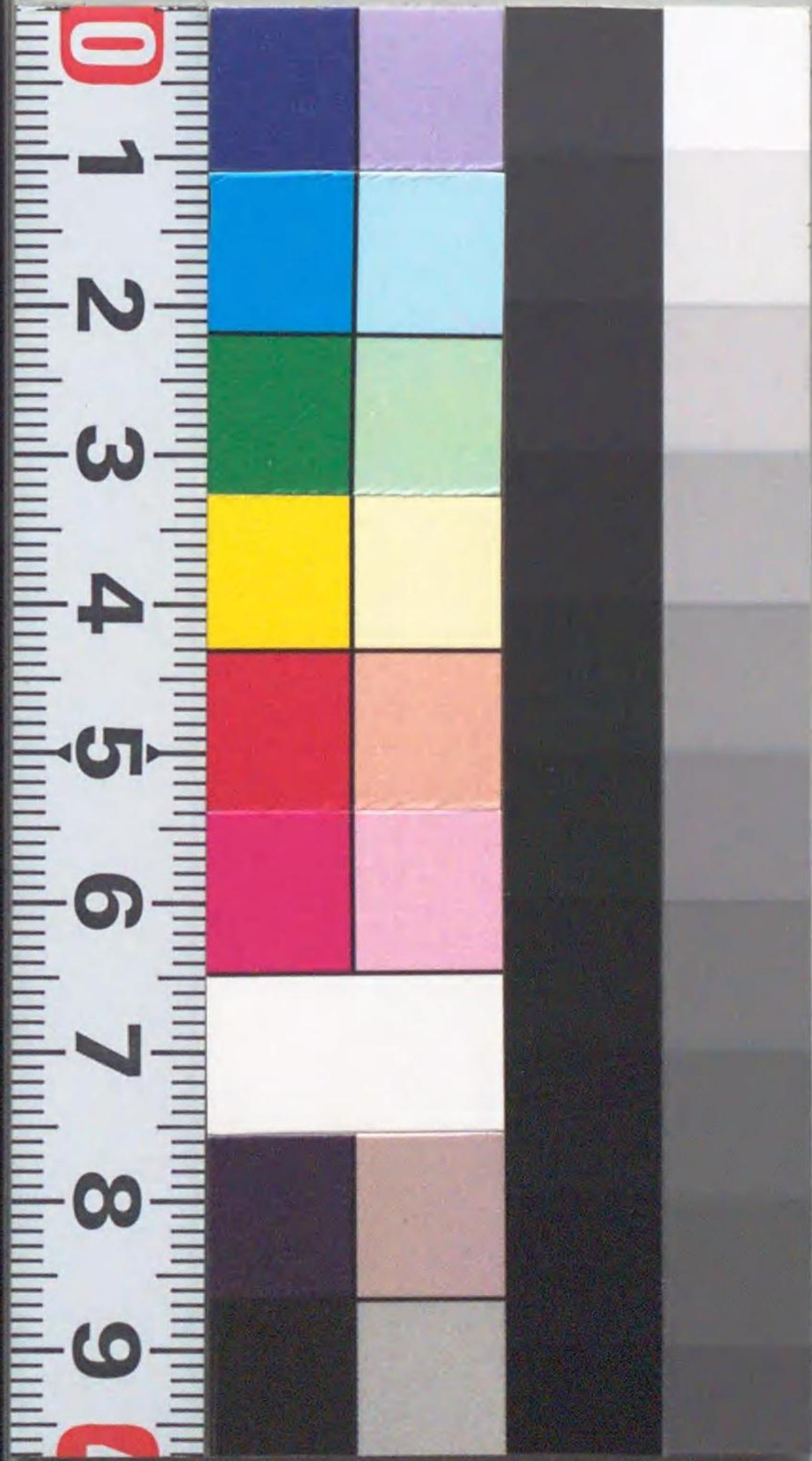


述  
五

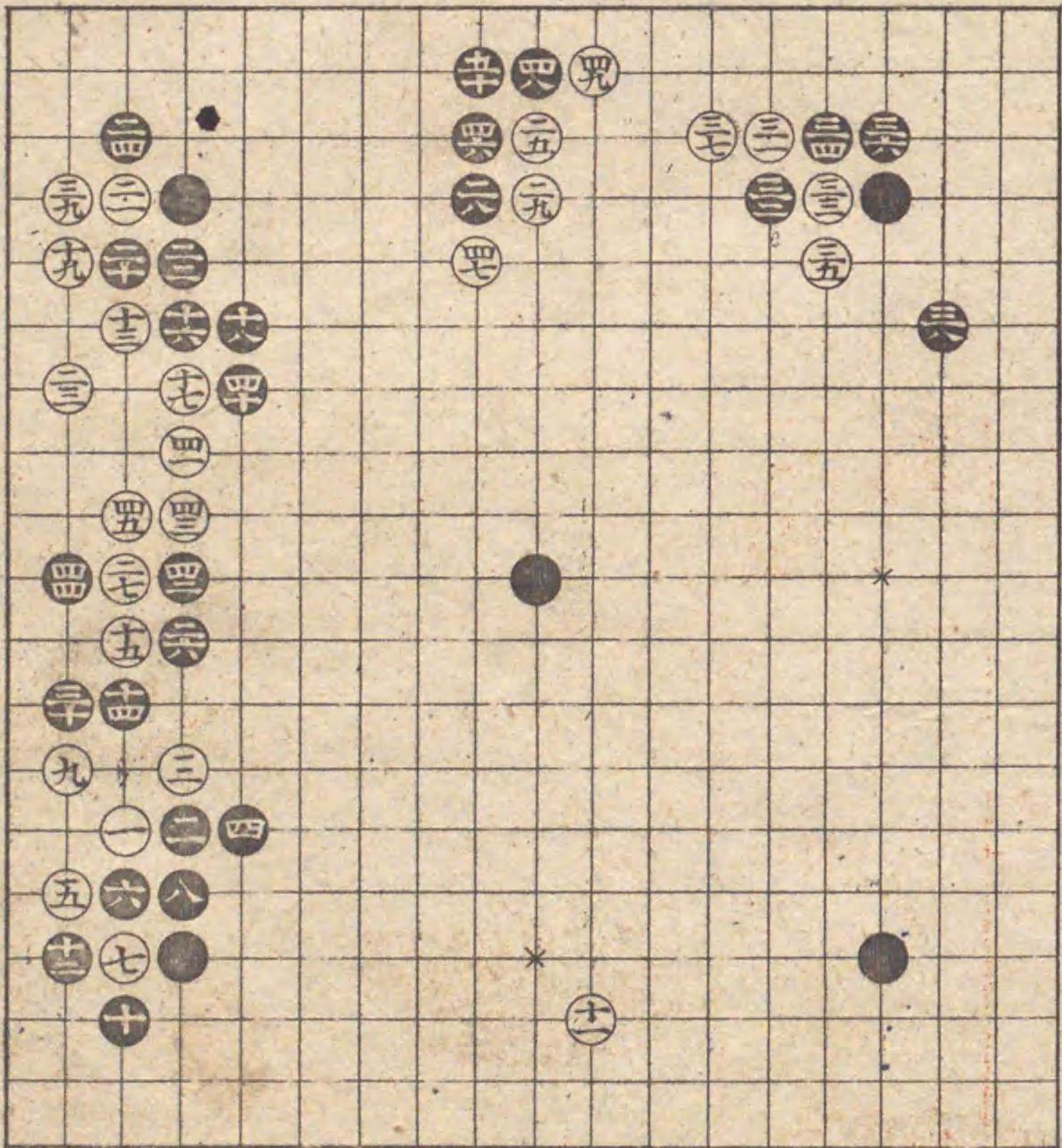
795.  
H3380  
W)



795  
H338a  
(1)

置碁自在

白十五の手只継てハ  
二七の処へうたれ悪  
き故不附て打之黒二  
八の手少とあぢ形  
なれとも征の中残打  
心ふて宜黒三四の切  
よと替打方次不記す



○置碁自在

五目置之部

○一

方圓書房

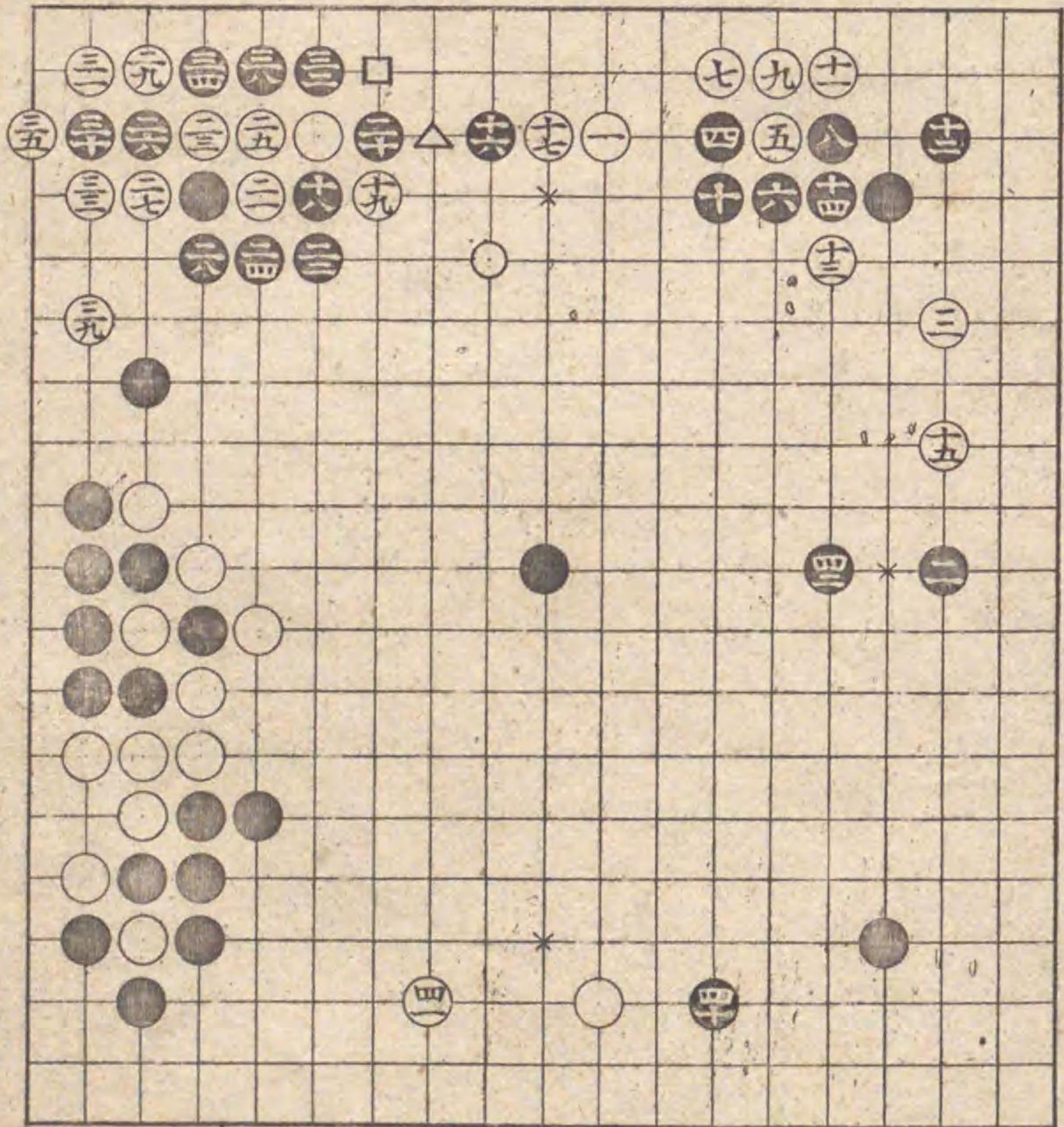


寄贈

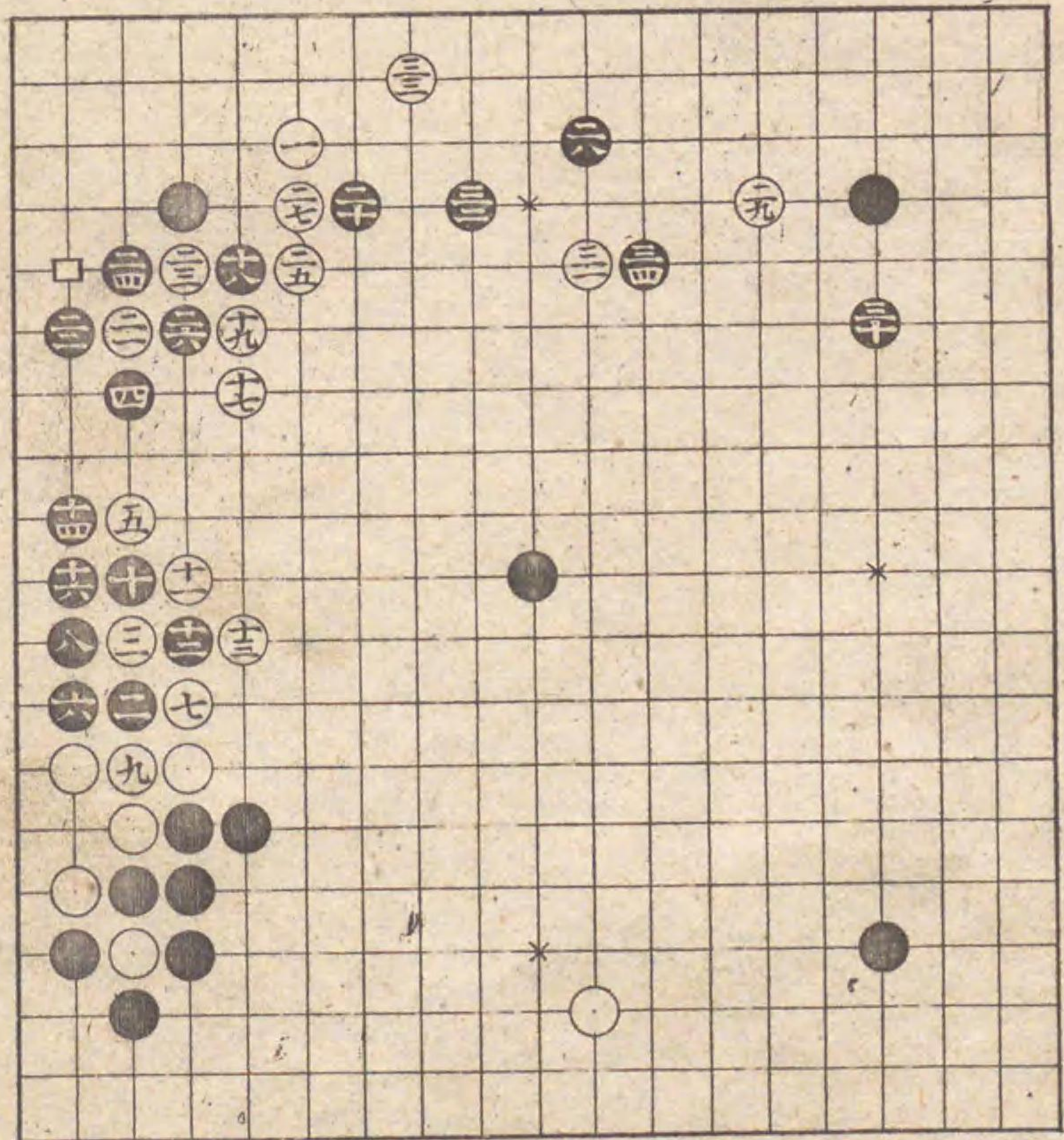
瀬越田碁文庫  
殿

617159

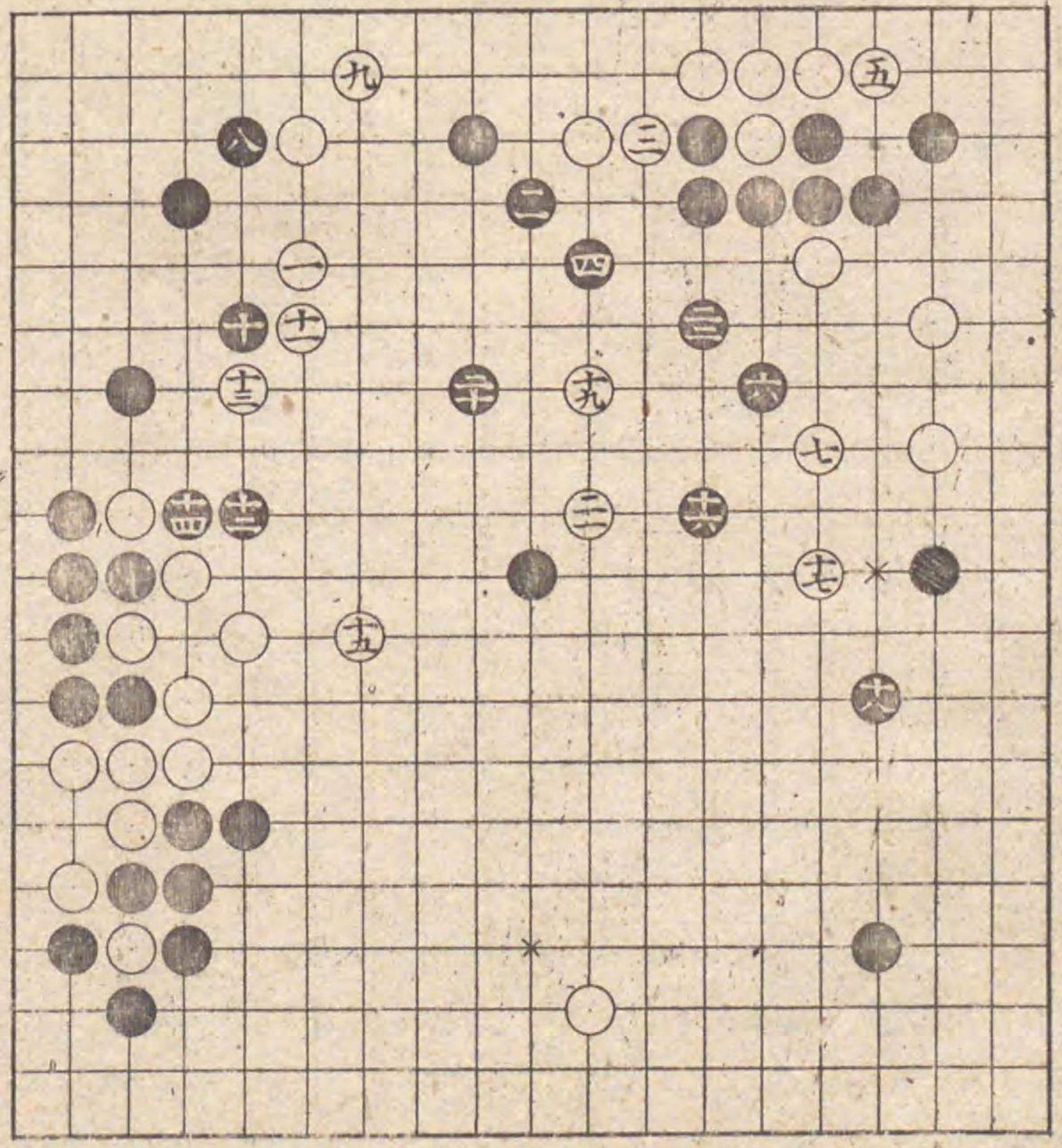
前番白十七より替る  
 黒三二の手よろし  
 白三三の手にて口印  
 へ切ハ黒△印に繼白  
 三八の所打一目提其  
 時黒○印へ打可然替  
 打方次小ゑるす  
 打こう  
 毛とる



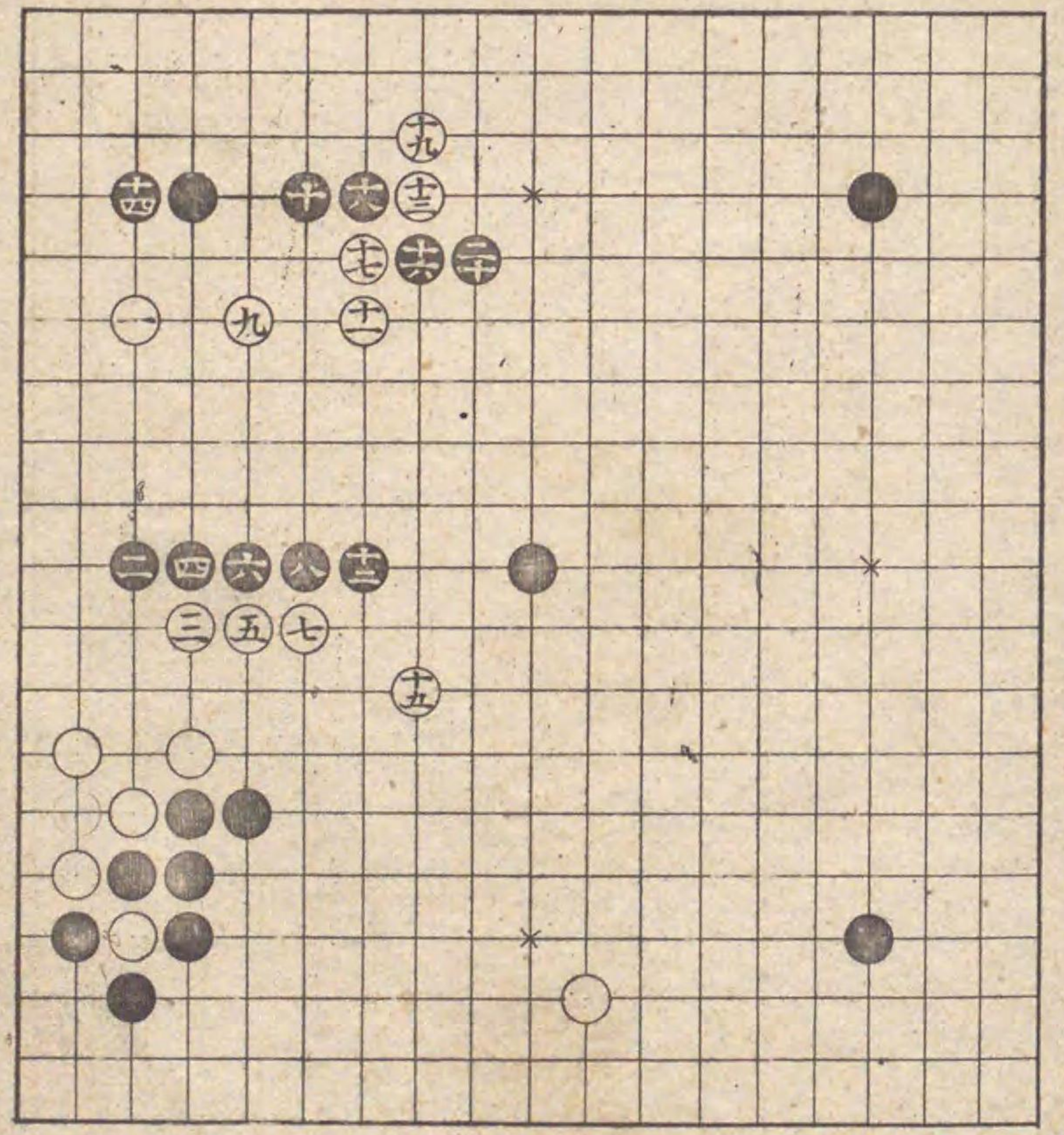
前番白十三の手より  
 りせり  
 白二三の手にて直小  
 二五の所へ打バ黒白  
 の二七の処へ打白二  
 三乃所へきめる黒一  
 目繼白口印をさへ  
 る其時黒二二の一目  
 を捨て五の一目を切  
 心持宜替り打方次小  
 記す  
 五劫とる



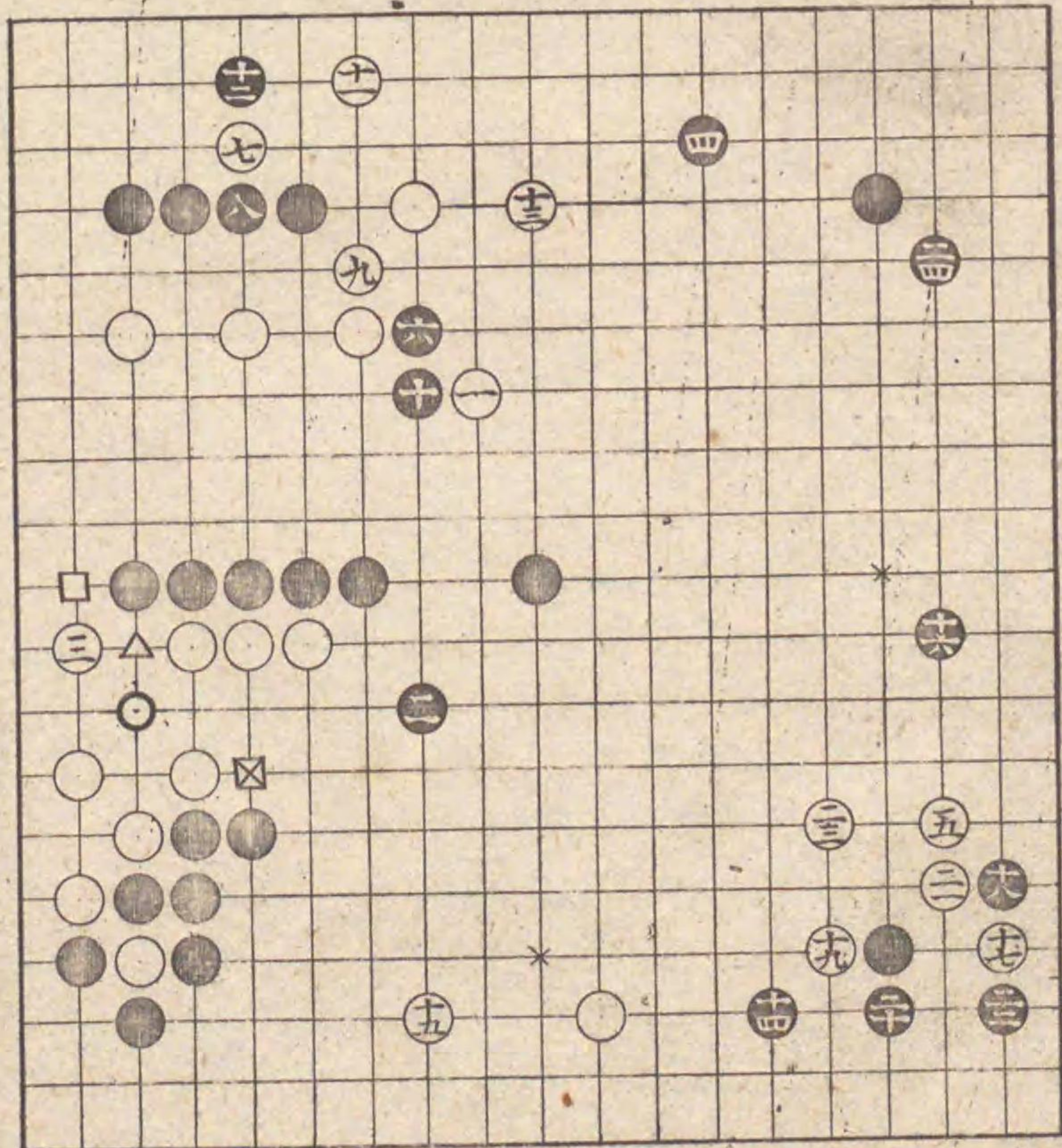
前番白十七より替る  
 白十九の時黒二十二  
 と如此打時ハ白より  
 可紛手段ふらんも  
 のろ



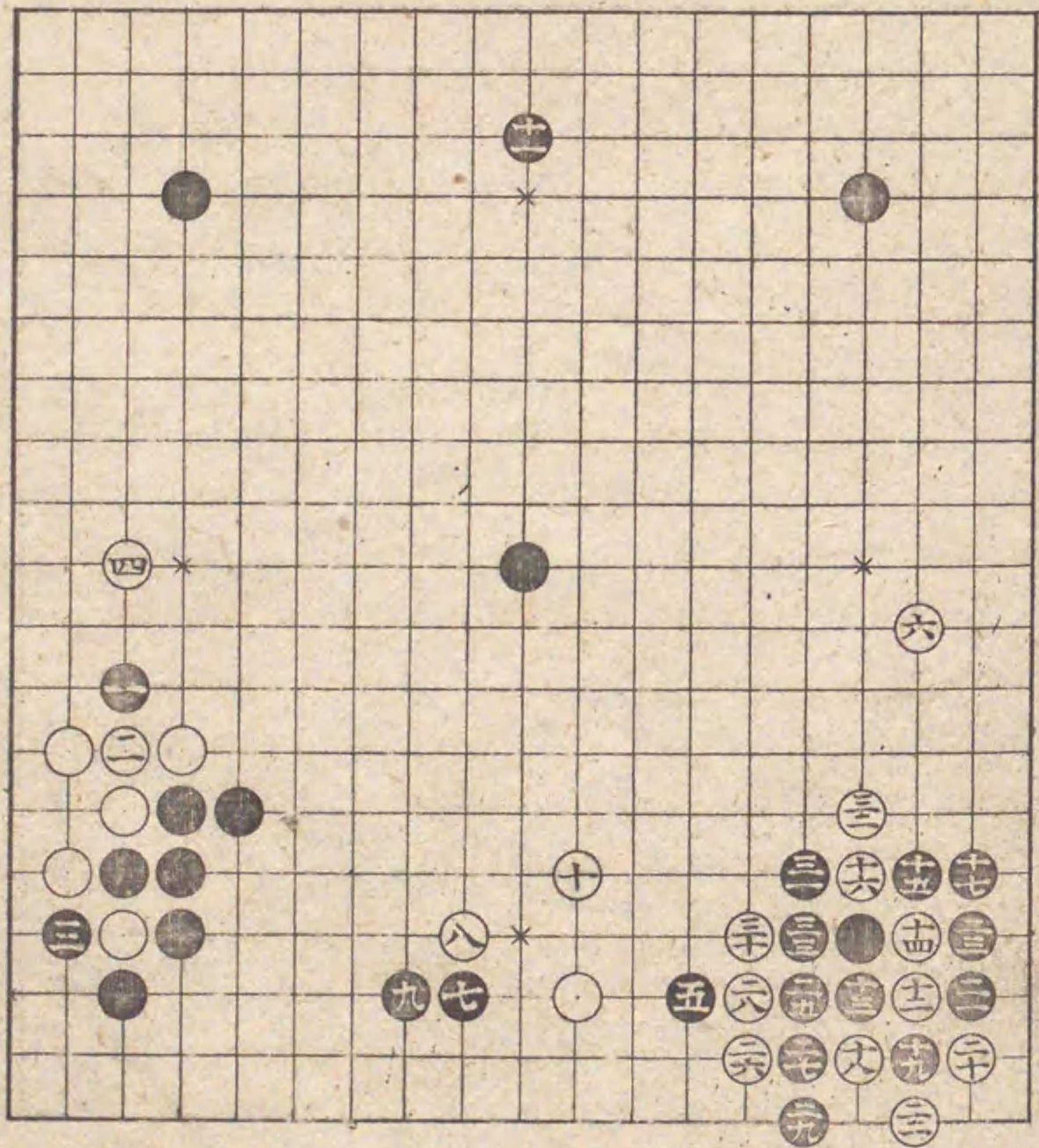
本番白十四より替る  
 黒二と打白三と為打  
 黒四と押て如是打時  
 ハ手筋安らりふして  
 大小宜替り打方次ハ  
 記す



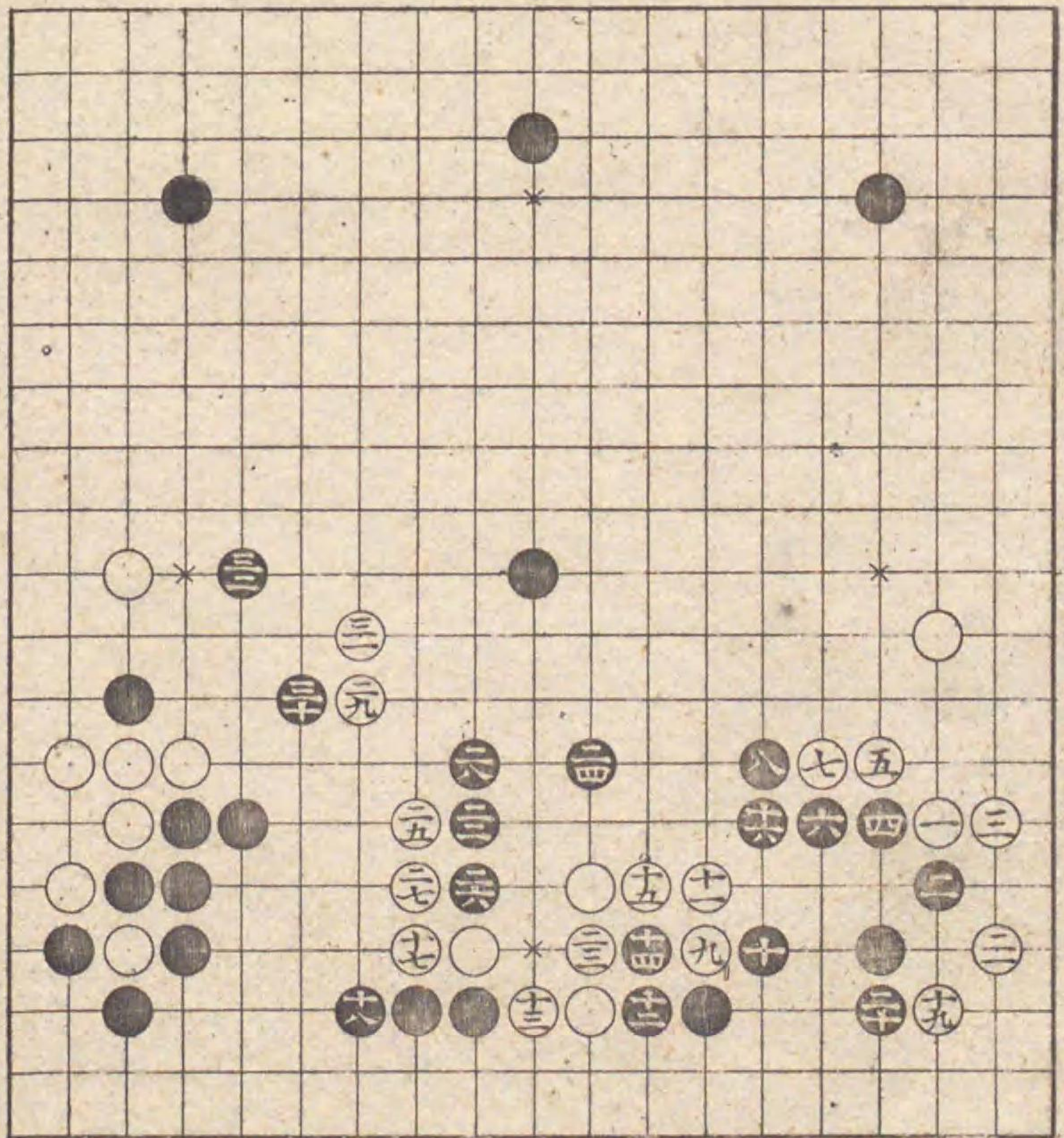
前番白十五より替る  
 黒六の手宜はねふあ  
 る手とあるべし白九  
 の手にて黒の十の所  
 へ打時ハ黒口印へ押  
 るこ白手をぬけハ○  
 印へ打白△印は次時  
 黒口印へ打死あり白  
 生て居る時ハ九の所  
 へ打故吉又替り次こ  
 ある也



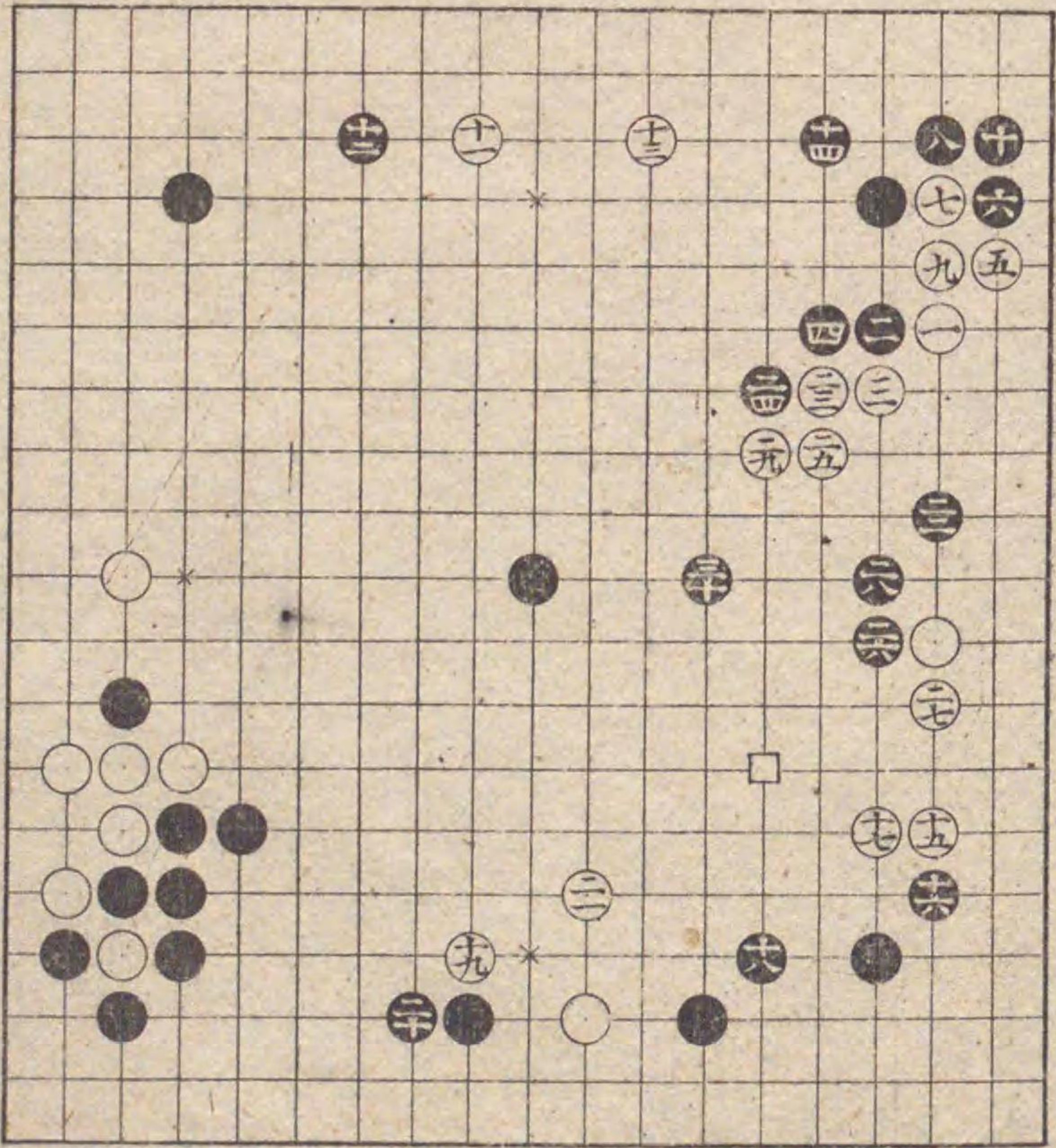
本番黒十二より替る  
 白十六無理に替る  
 為記之替り次ふある  
 粘



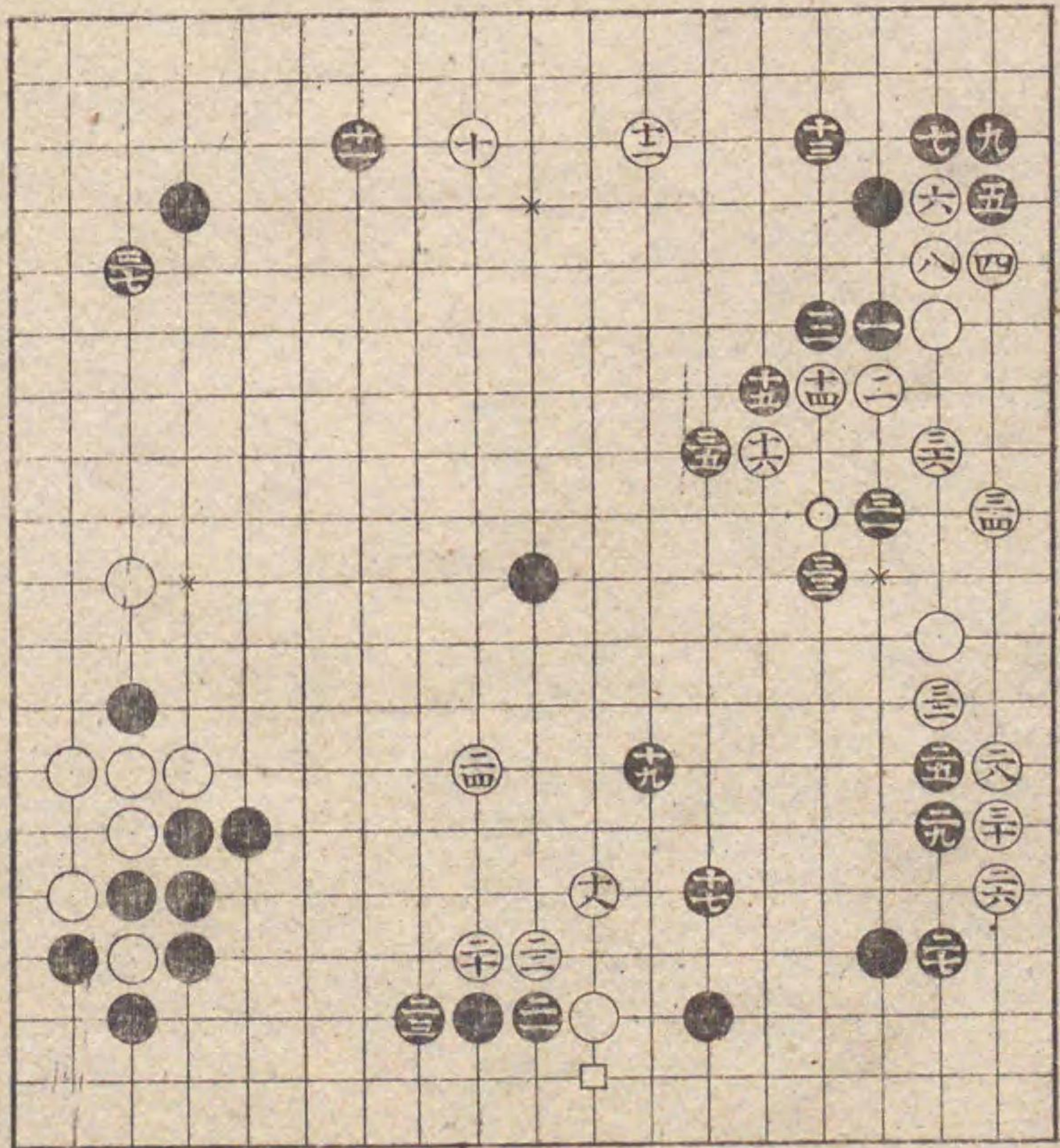
前番白十二より替る  
 黒二六の手黒堅まぢ  
 へ如此打吉黒三十弁  
 て三二と打手筋此所  
 小てハよし



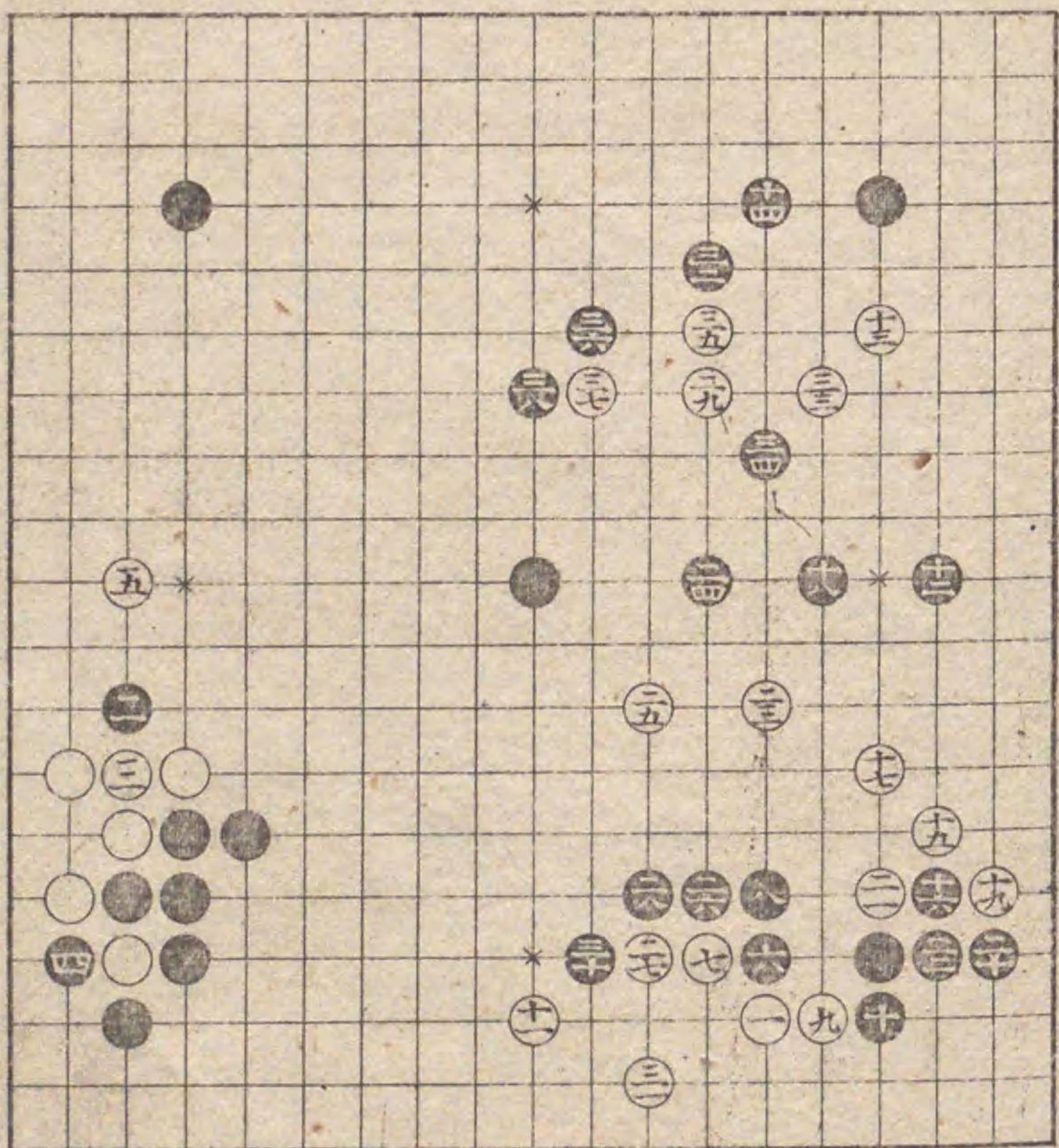
本番より六番目の白  
 ハの手より替る  
 黒二二打込吉三十の  
 手小て口印へ二間小  
 懸て打も吉如是黒堅  
 く白薄くなりて白よ  
 り可打手筋多し



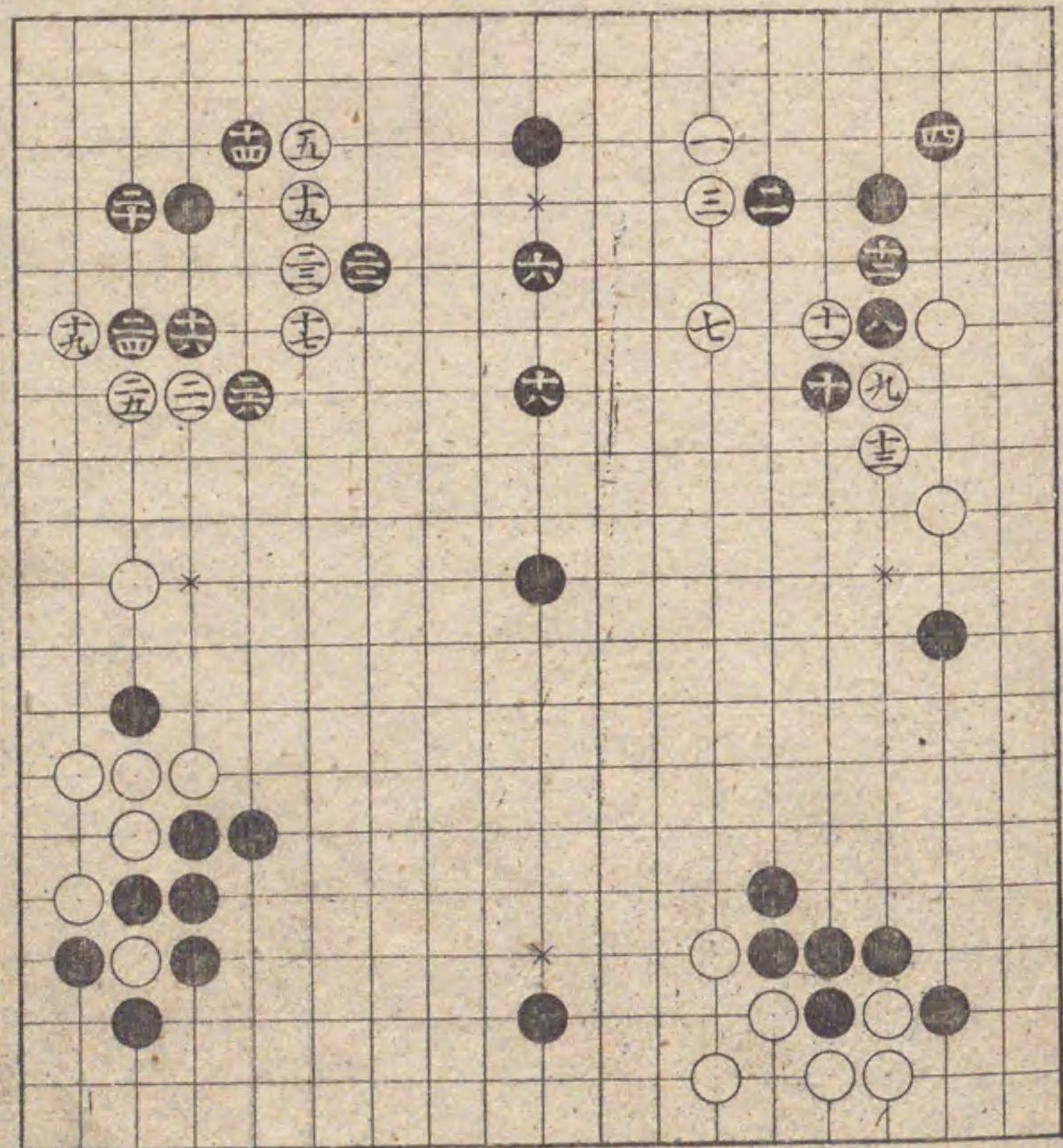
前番白十五より替る  
 黒二三の手を口印へ  
 渡りても吉黒三五吉  
 三六の所へ打分て打  
 も有乍去白○印へか  
 け次不成黒面白りら  
 ば故不如是打安く紛  
 ちまきを打とむ



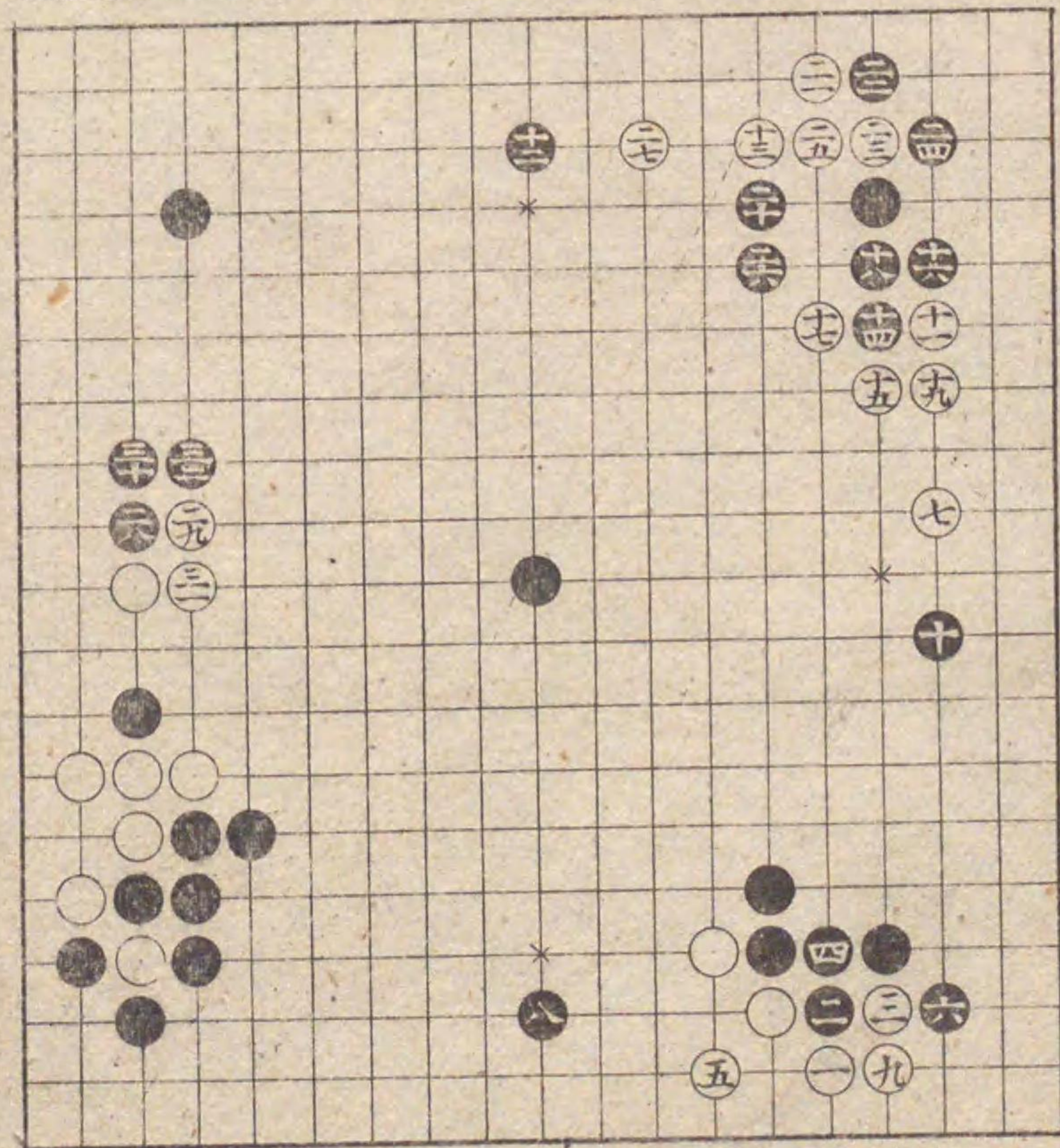
本番白十一より替る  
 黒十八此所まで八吉  
 此石中押のかたちこ  
 三二吉  
 三六吉



前番白十三より替る  
 左右の白はらへ白紛  
 れ可打手談なし海  
 あることなり  
 四吉  
 十八吉

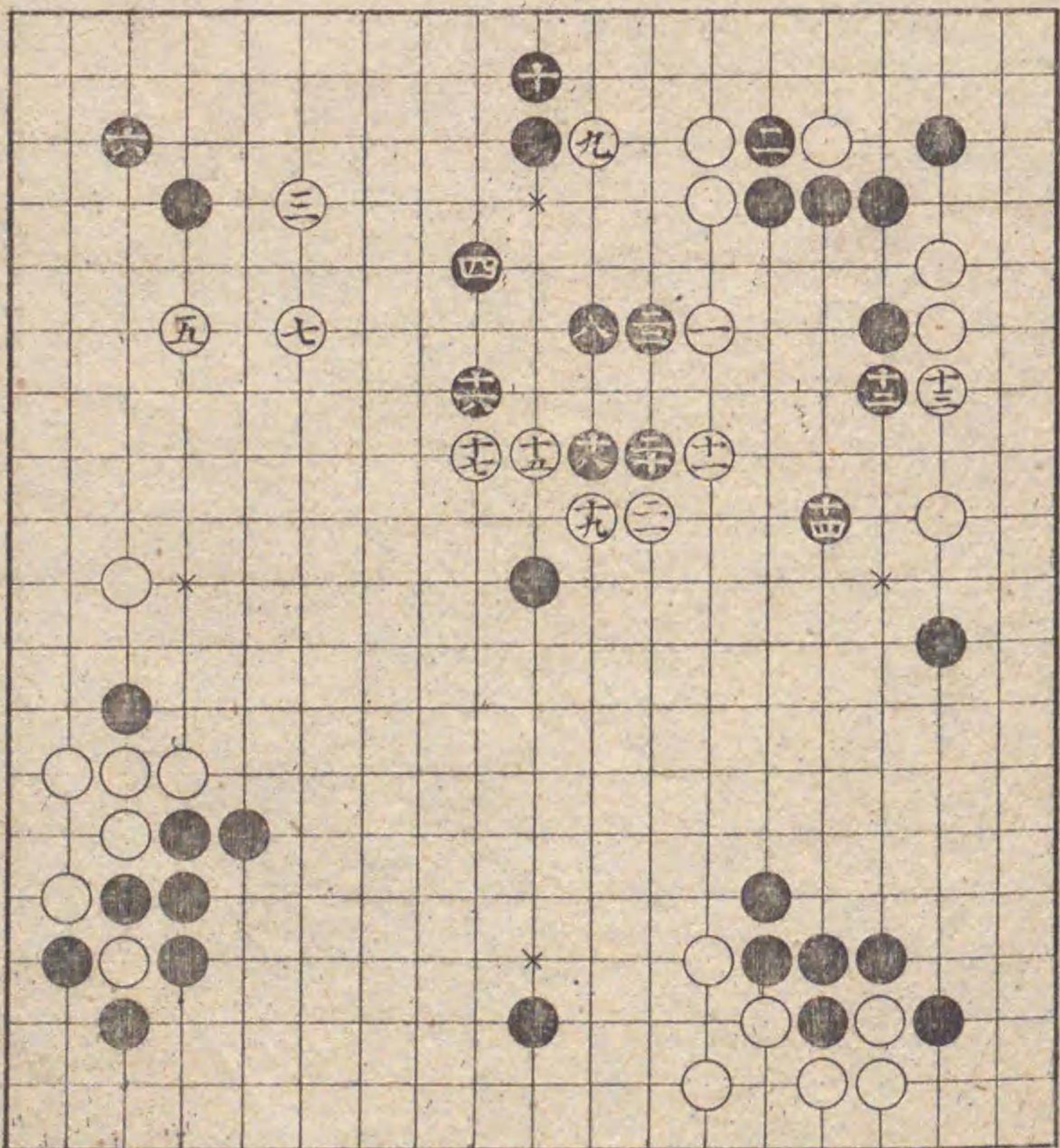


前番白九より替る  
 黒二八の手白堅き処  
 故結て打とり如是打  
 ハ黒も堅く成大小吉  
 心得べし  
 二六吉  
 二八吉

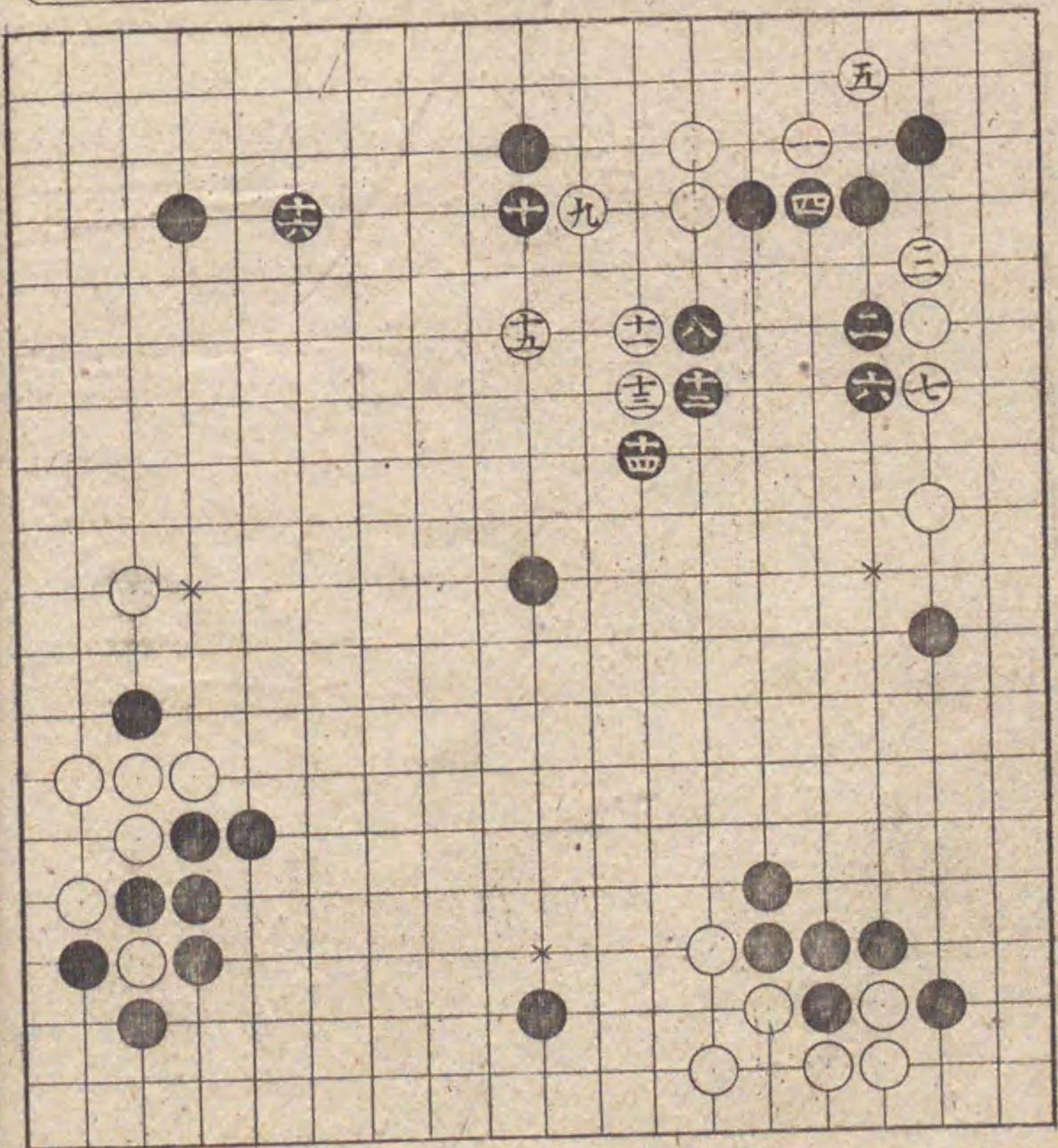




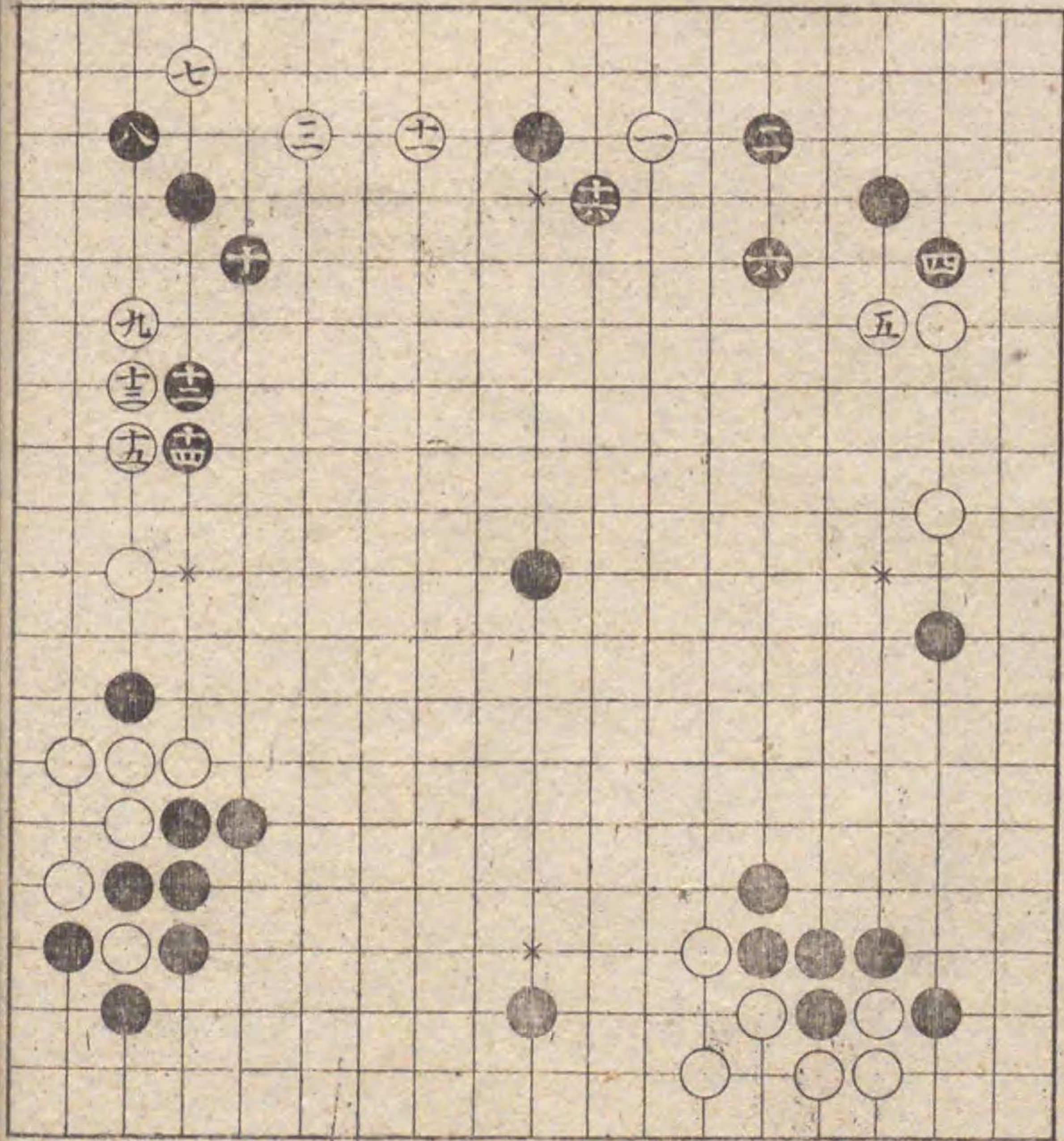
前番白五より替る  
 如此石立紛れなし白  
 十五無理なり如何  
 も可打手談なし黒  
 前小記氏通り宜き手  
 こ心得べし



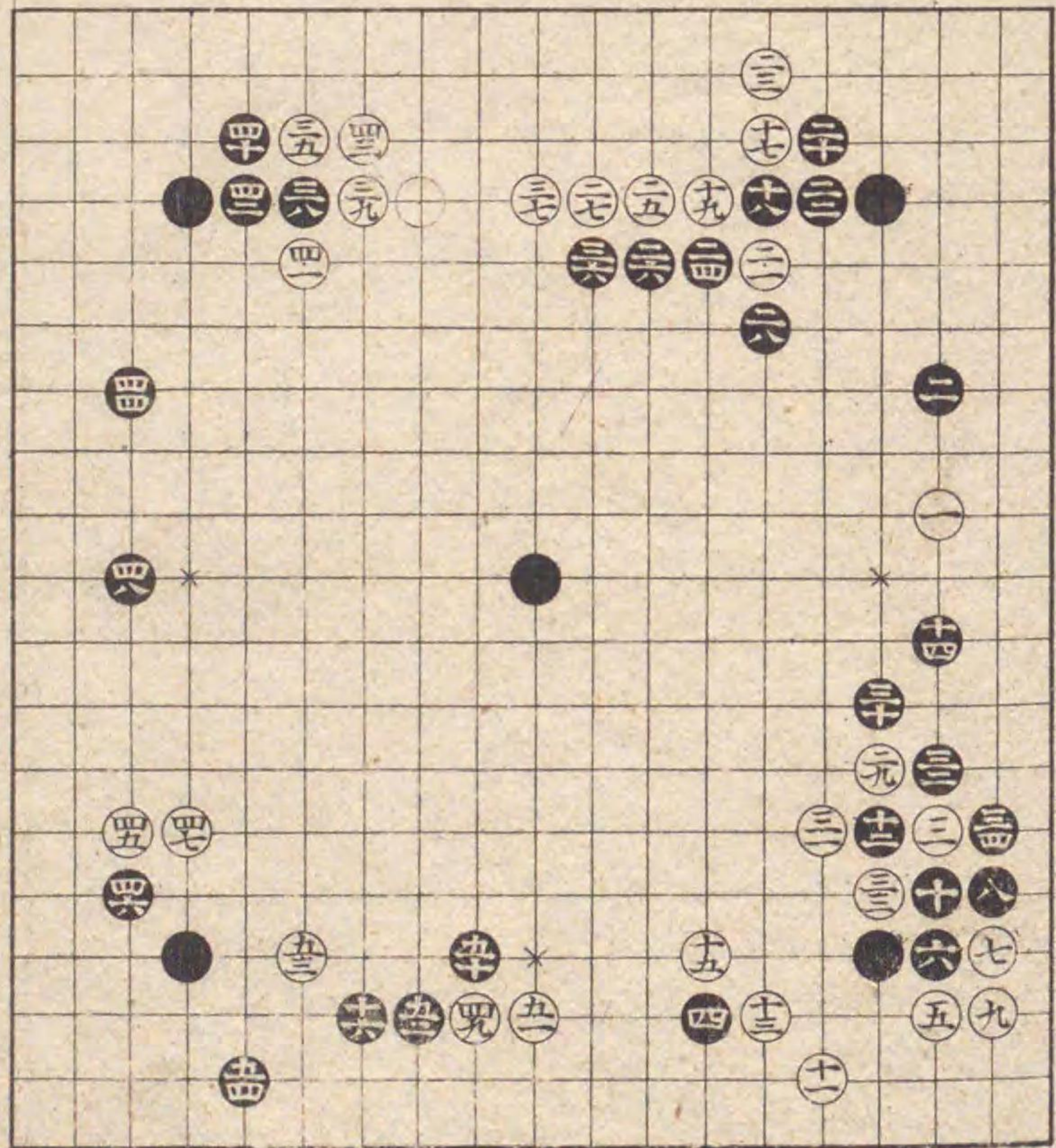
前番白五より替る



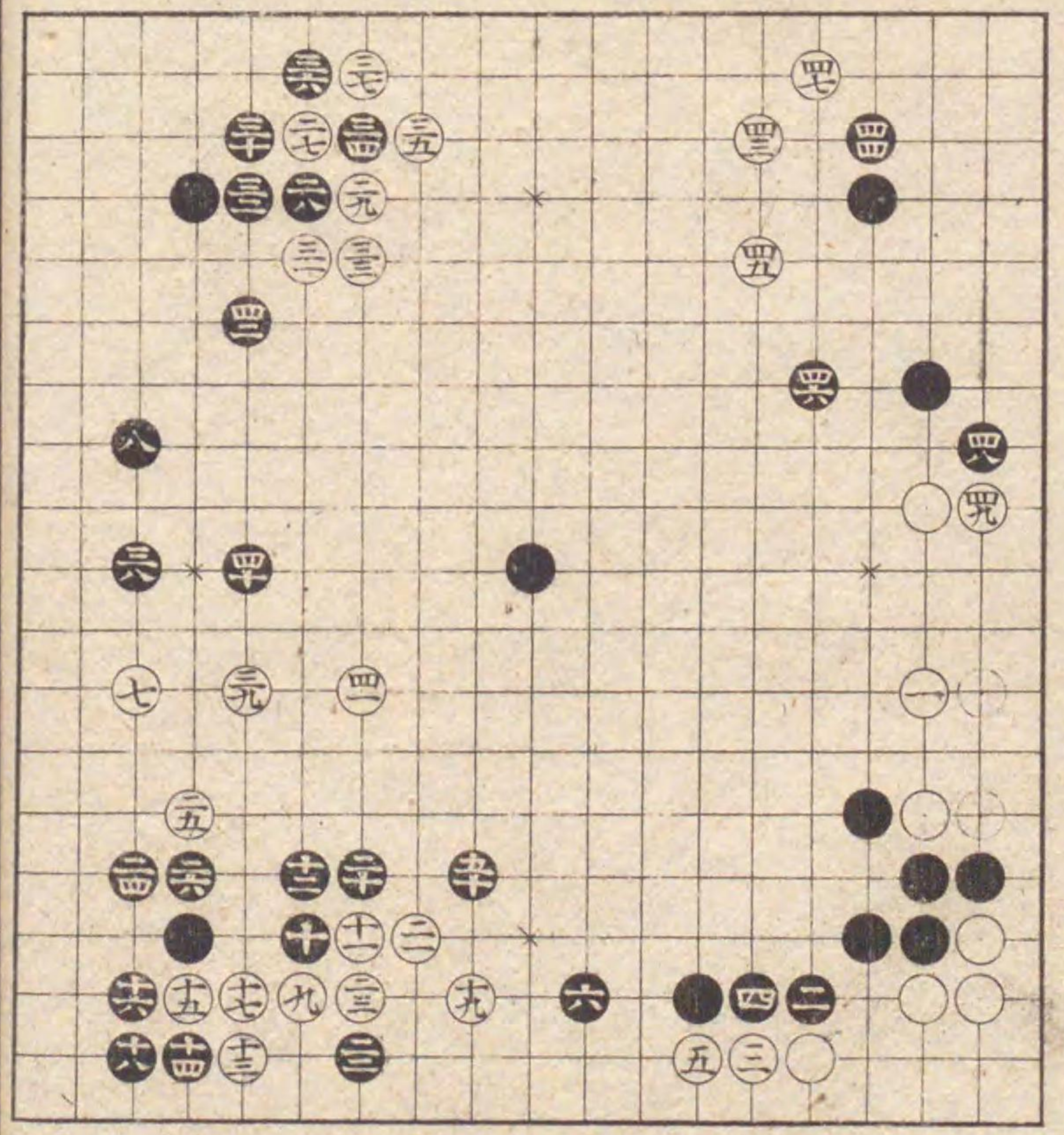
本碁より十一番目の  
 白十三より替る  
 如此振替り黒よこ少  
 しも紛れをし十の手  
 前小なる手之左右へ  
 ひゞま宜し心得べし



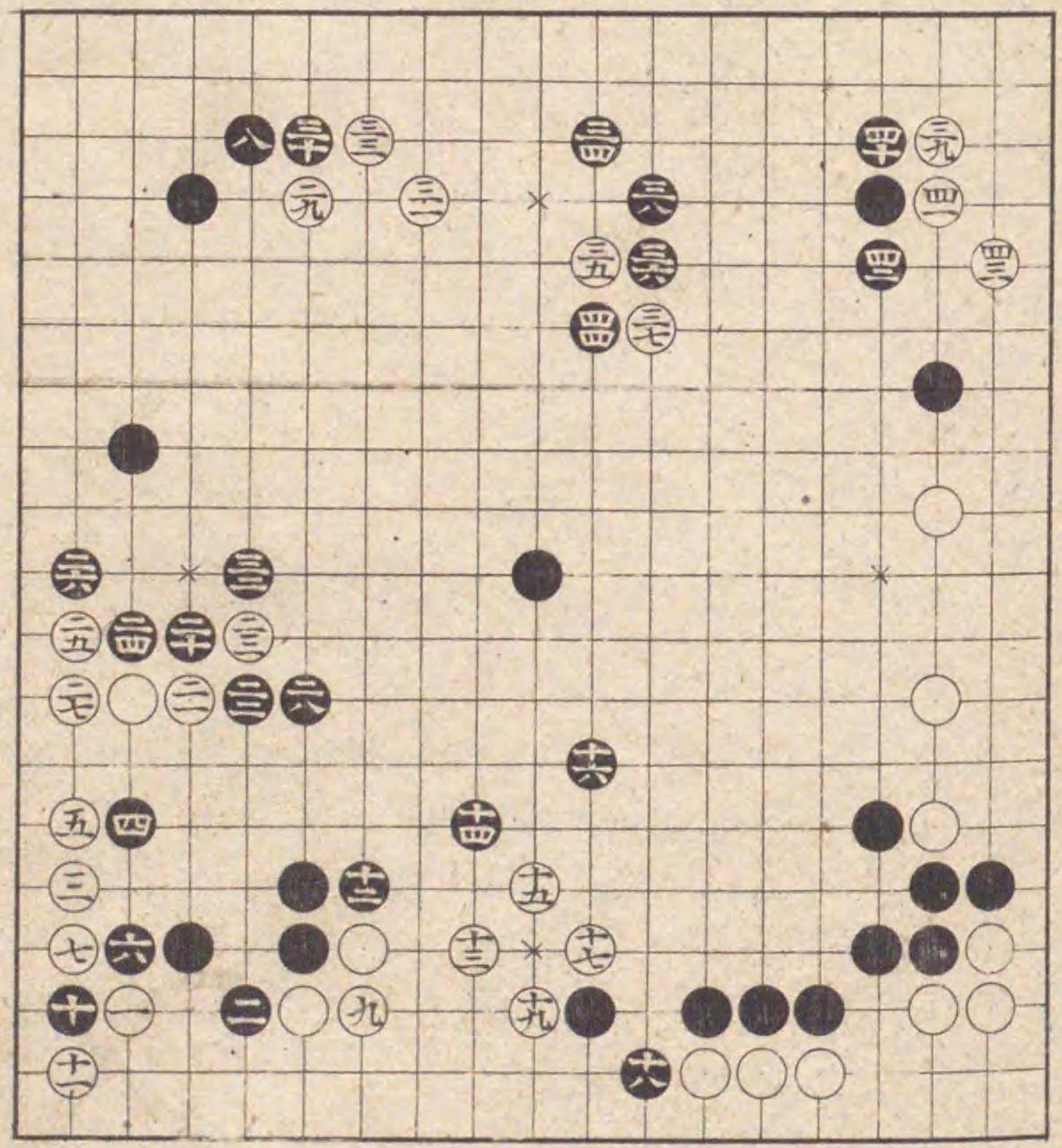
黒十二此場合ふてハ  
 吉黒三二と軽く一目  
 如此打捨るとし二四  
 の処押三八と打手談  
 前ふもなり心得べし  
 此所ふては別てよし



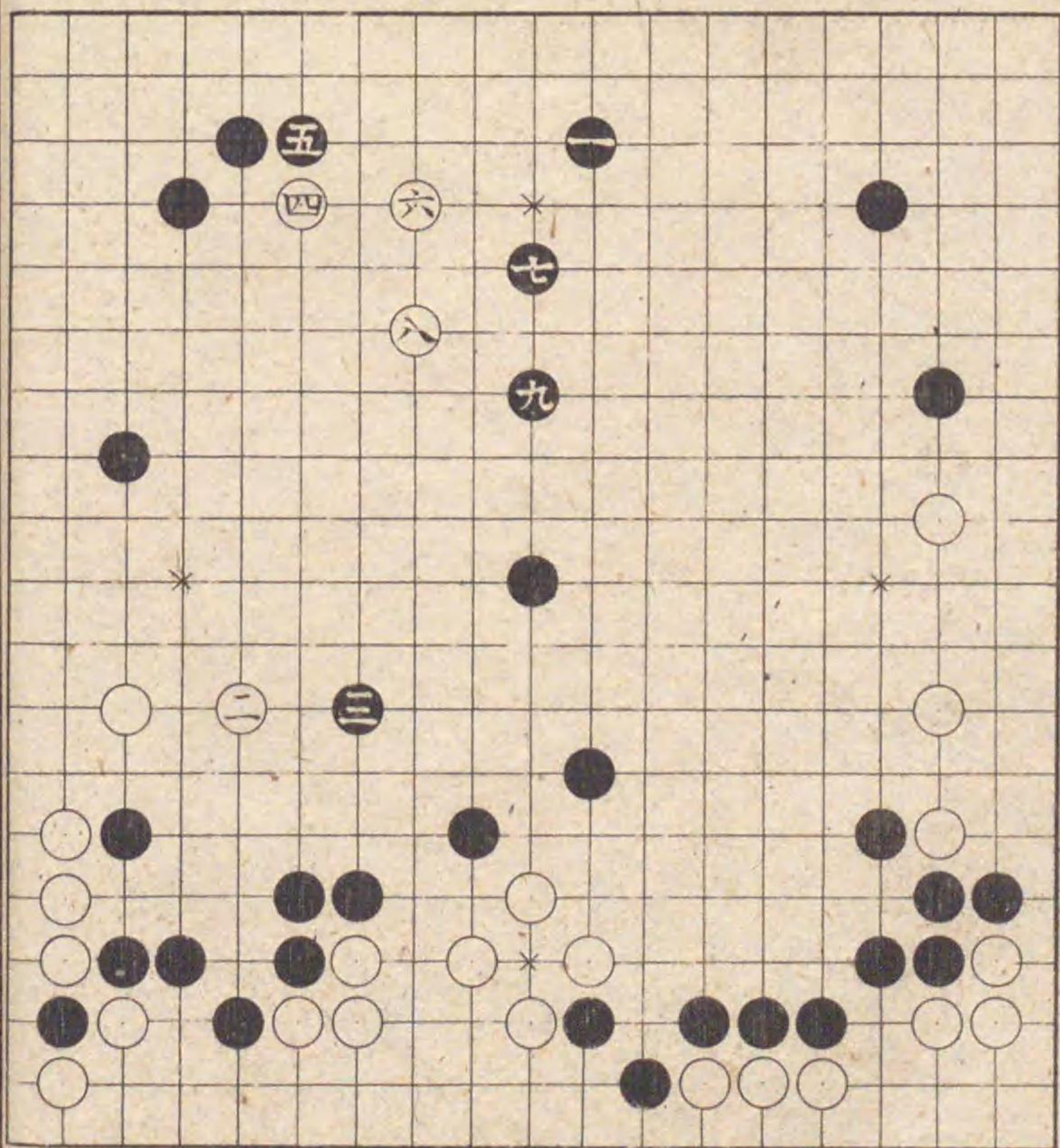
前番白十三とり替る  
 此替り大小吉二二と  
 のぞ如二四とかけつ  
 け前小記置意味合  
 能々心得べし  
 五十吉



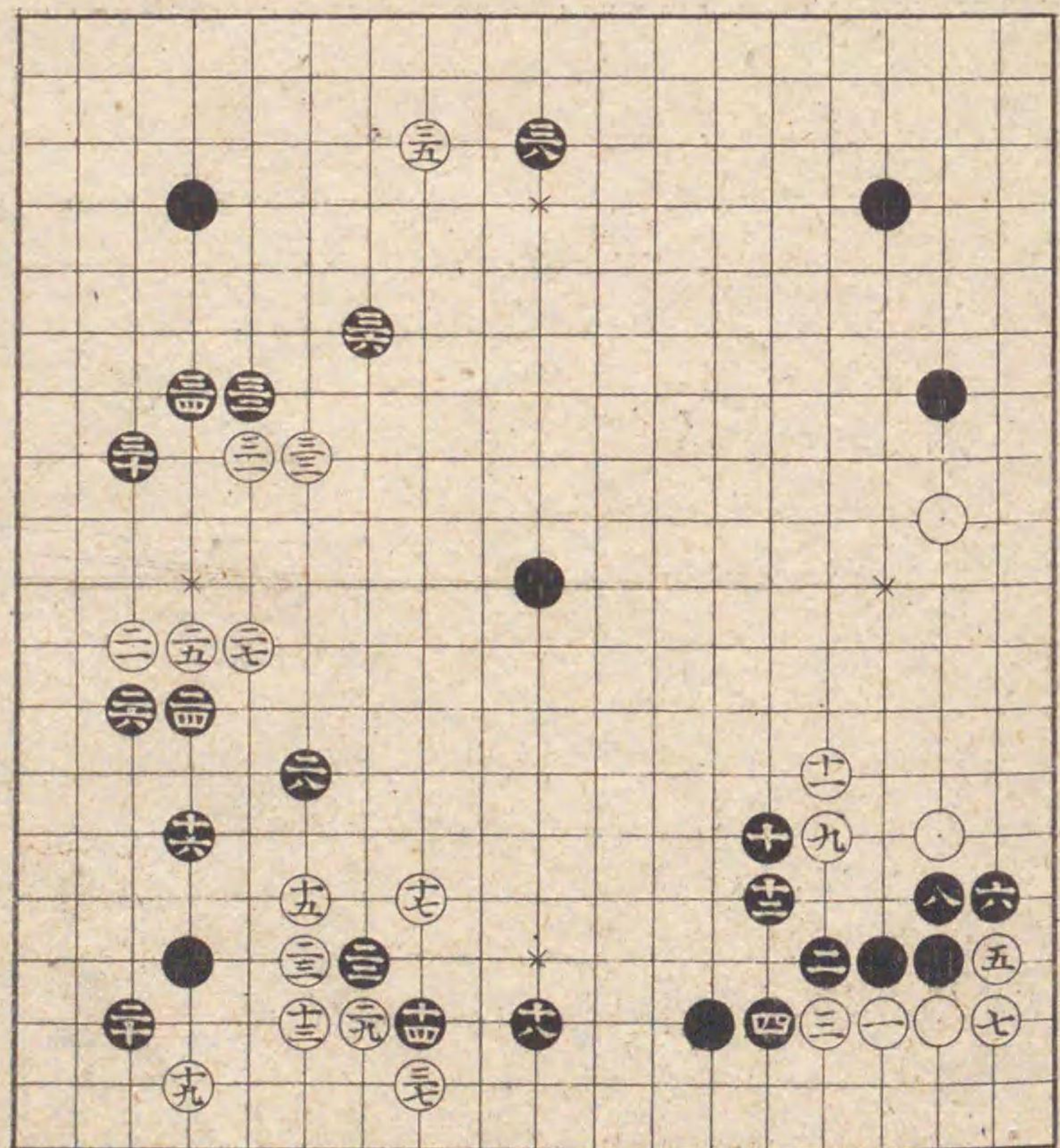
前番白十三とり替る  
 二十手大位手談心得  
 べし四三の所常は  
 押へて打となれとも  
 此場合ふて捨置四  
 と切吉



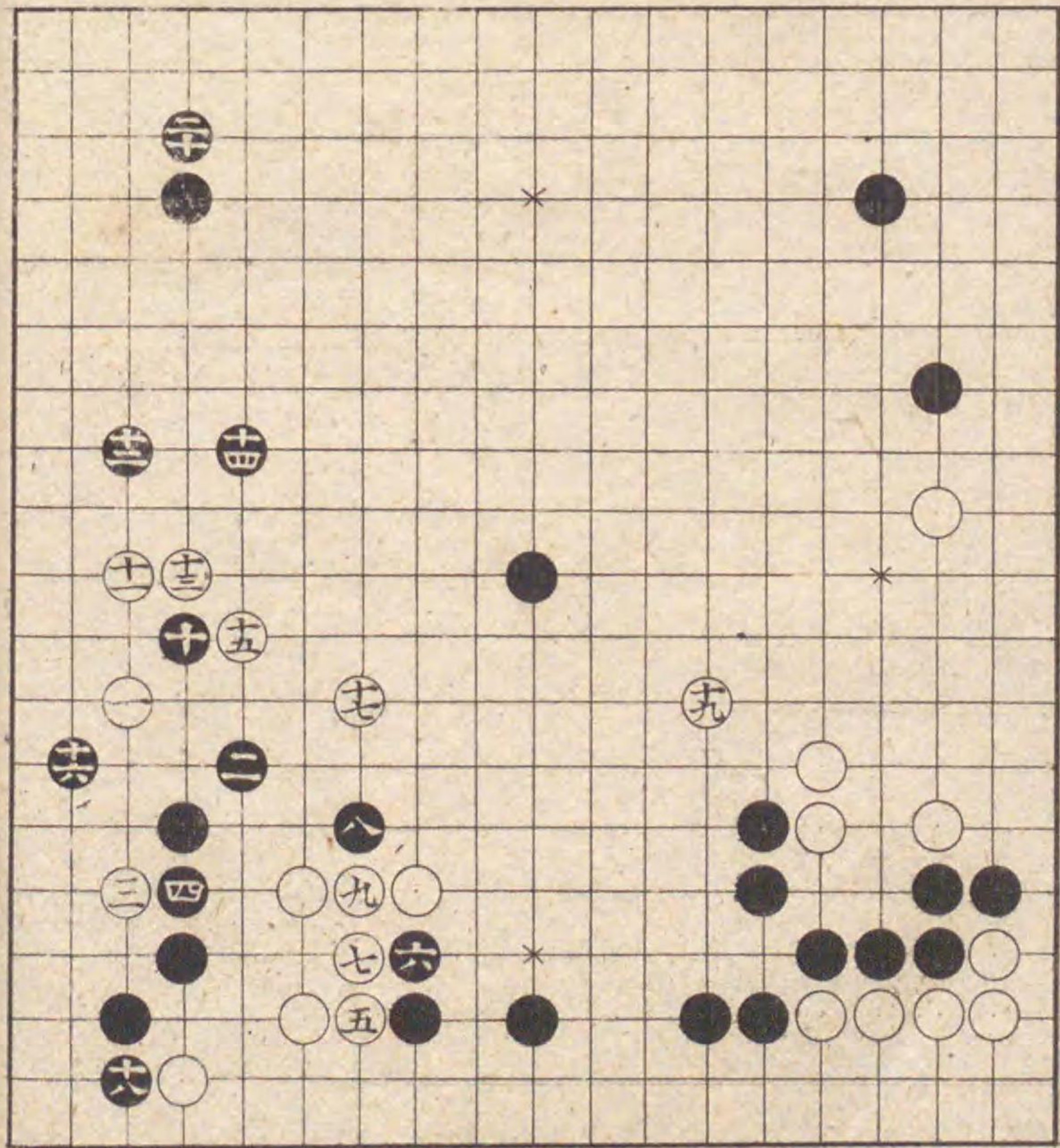
前番黒二十より替る  
七九飛大位ふして吉  
此替りも打とこ



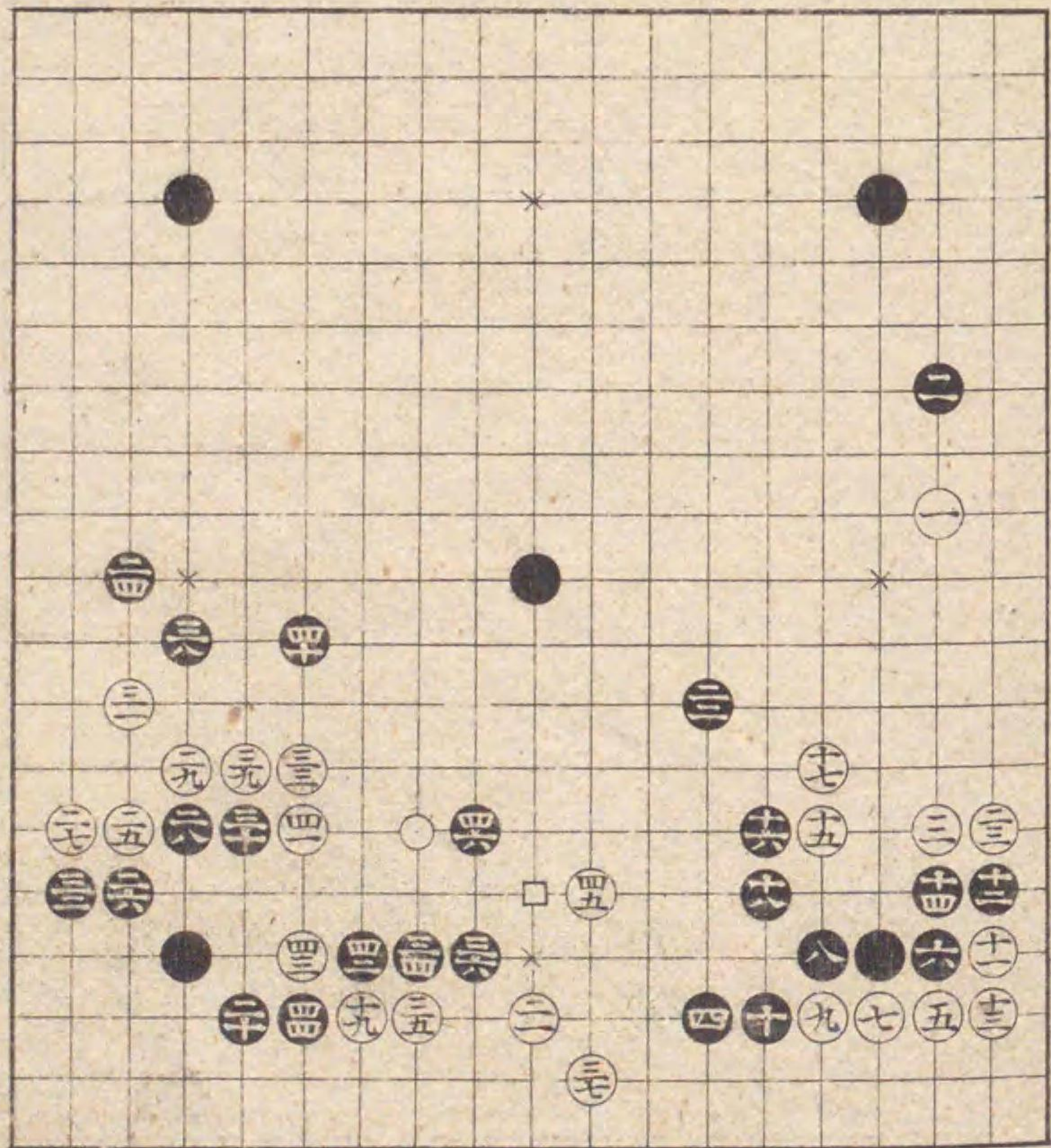
本番白七より替る  
黒十八吉二二のふた  
み打ねらひちり二四  
二八よし三十の詰可  
打手談ちり心得見る  
べし替次ふあらず



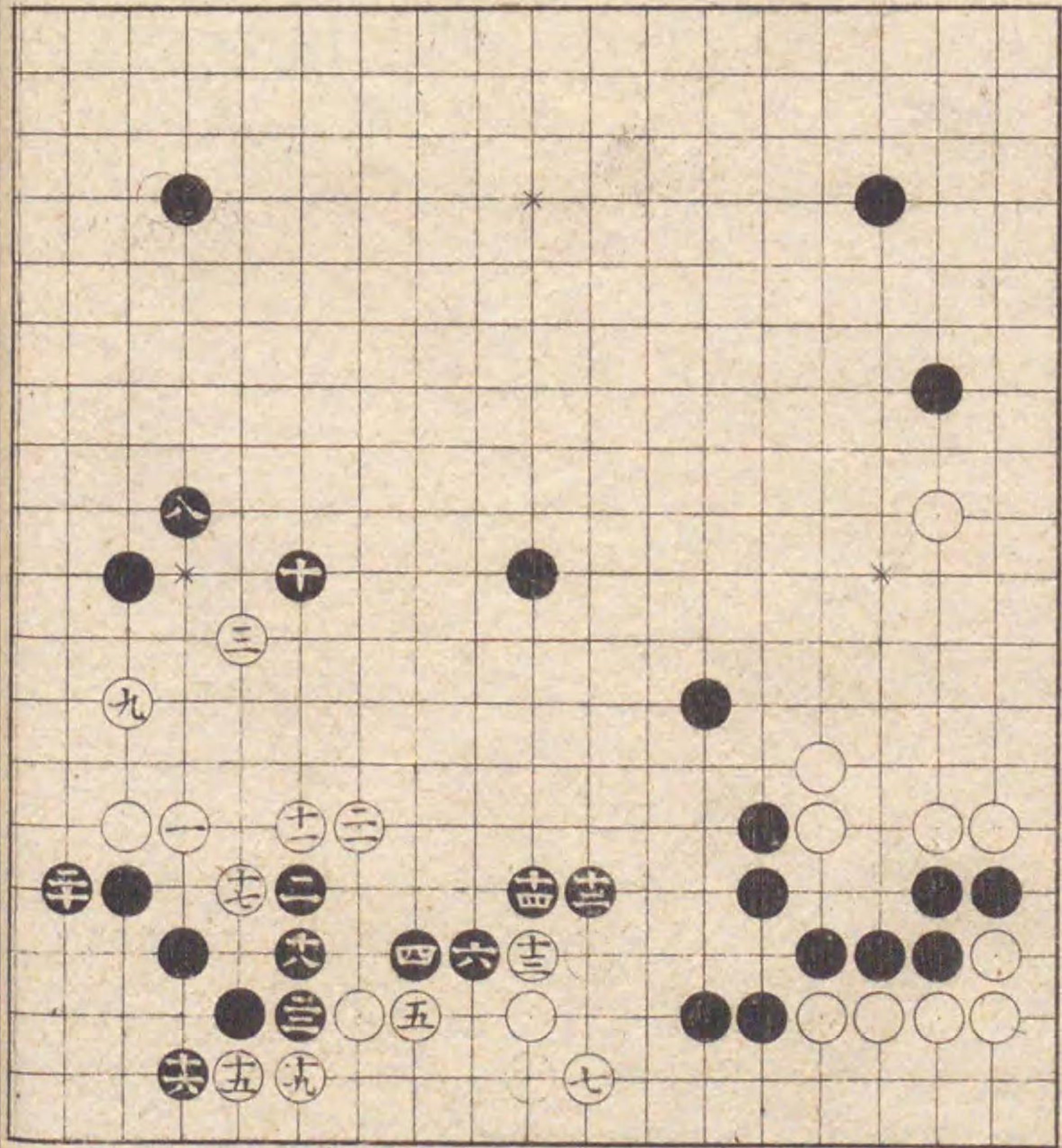
前番白二二と替る  
 如是急小一と詰る時  
 ハこそむこ前のどく  
 記氏手筋なり石立ど  
 に白打べ起すまなく  
 黒大位打手談を記に  
 能々心得べし



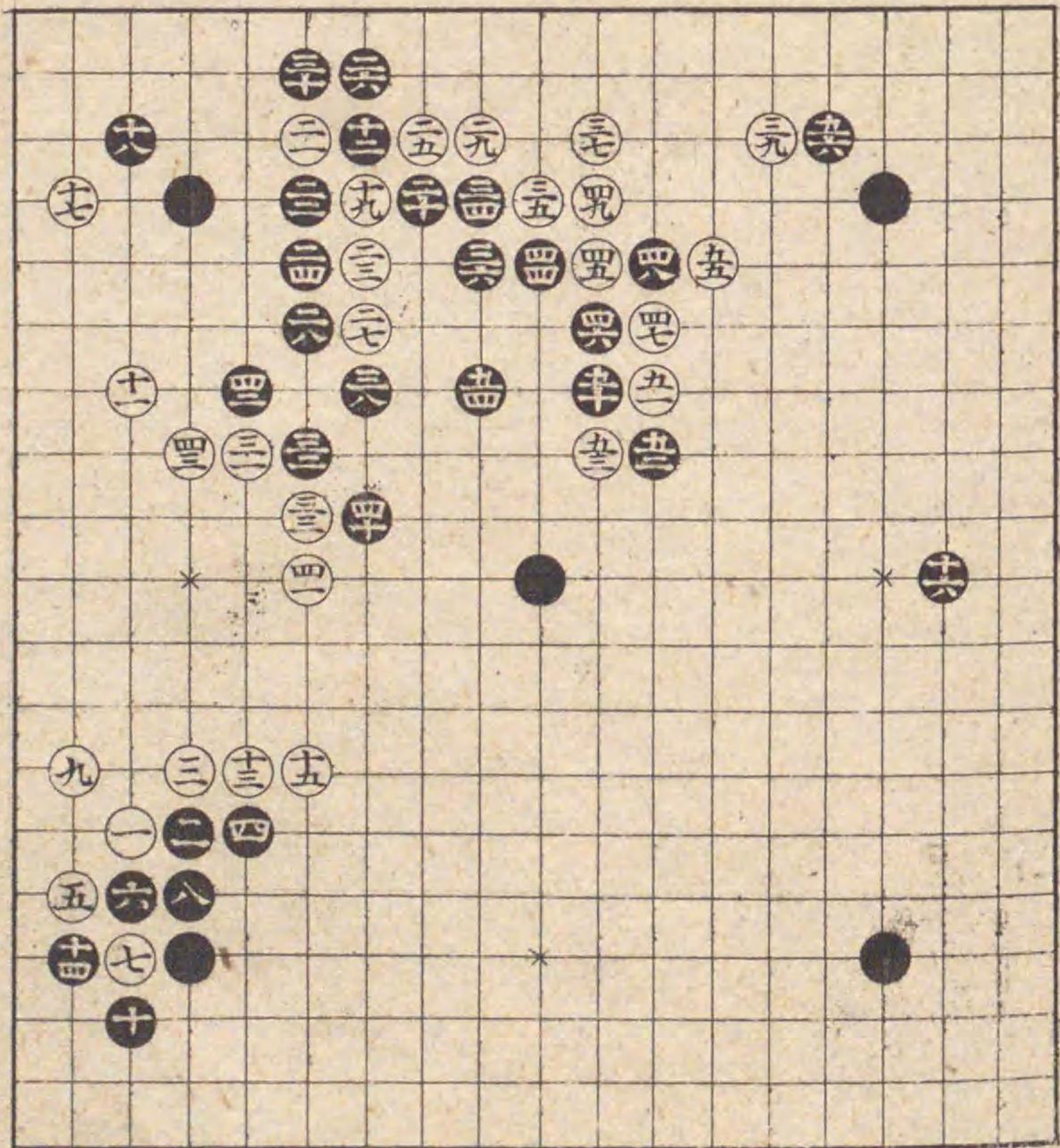
白二三れ手るとき捨  
 置大位不如是打手談  
 こ処々よりそねて打  
 ちり心得べし白四五  
 の手を口印へ打ハ黒  
 も〇印へ一間飛打ち  
 り



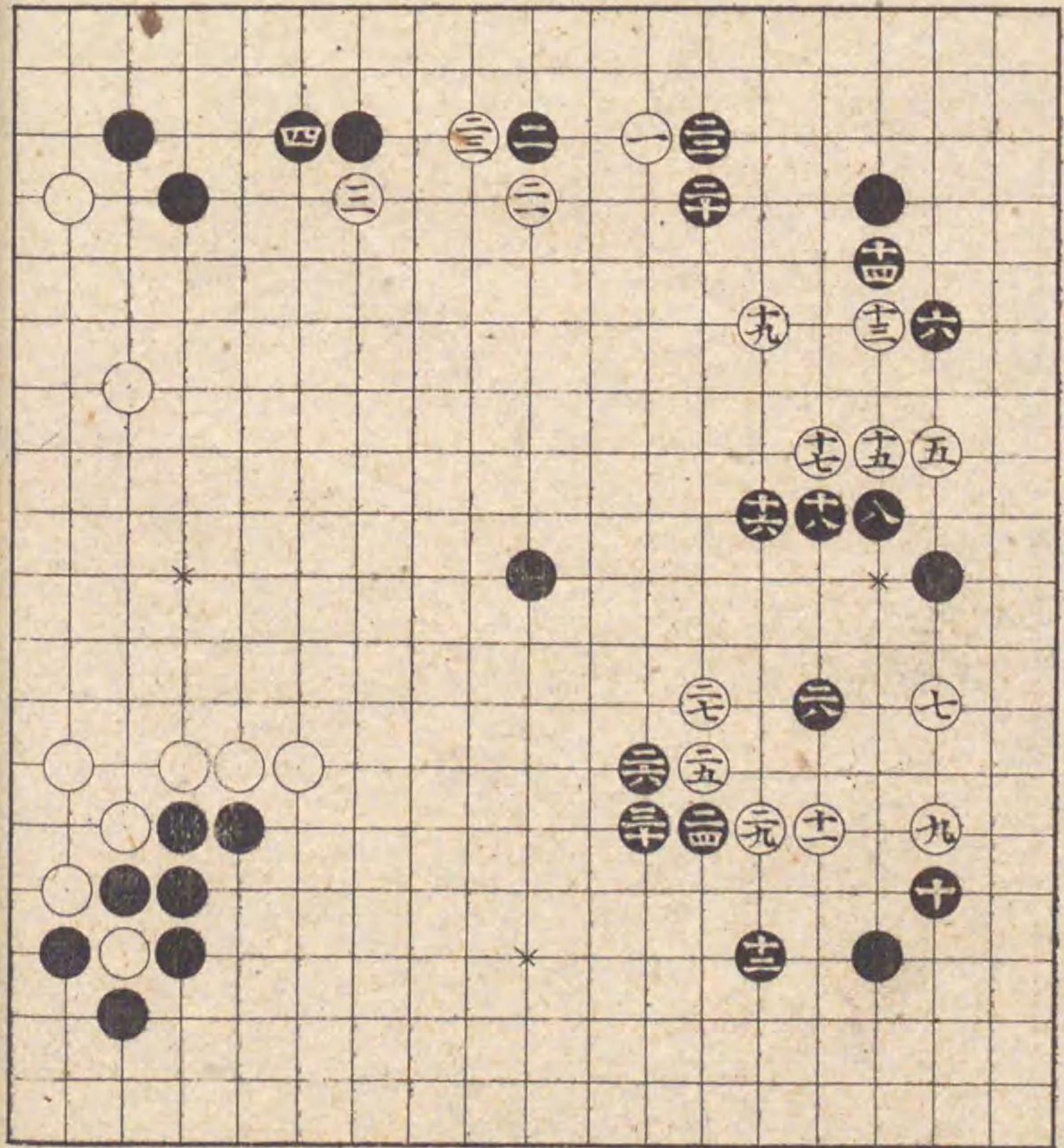
前番白二七より替る  
 如此替りてハ猶々吉  
 十の桂馬宜処なり大  
 位ちる手筋心得と



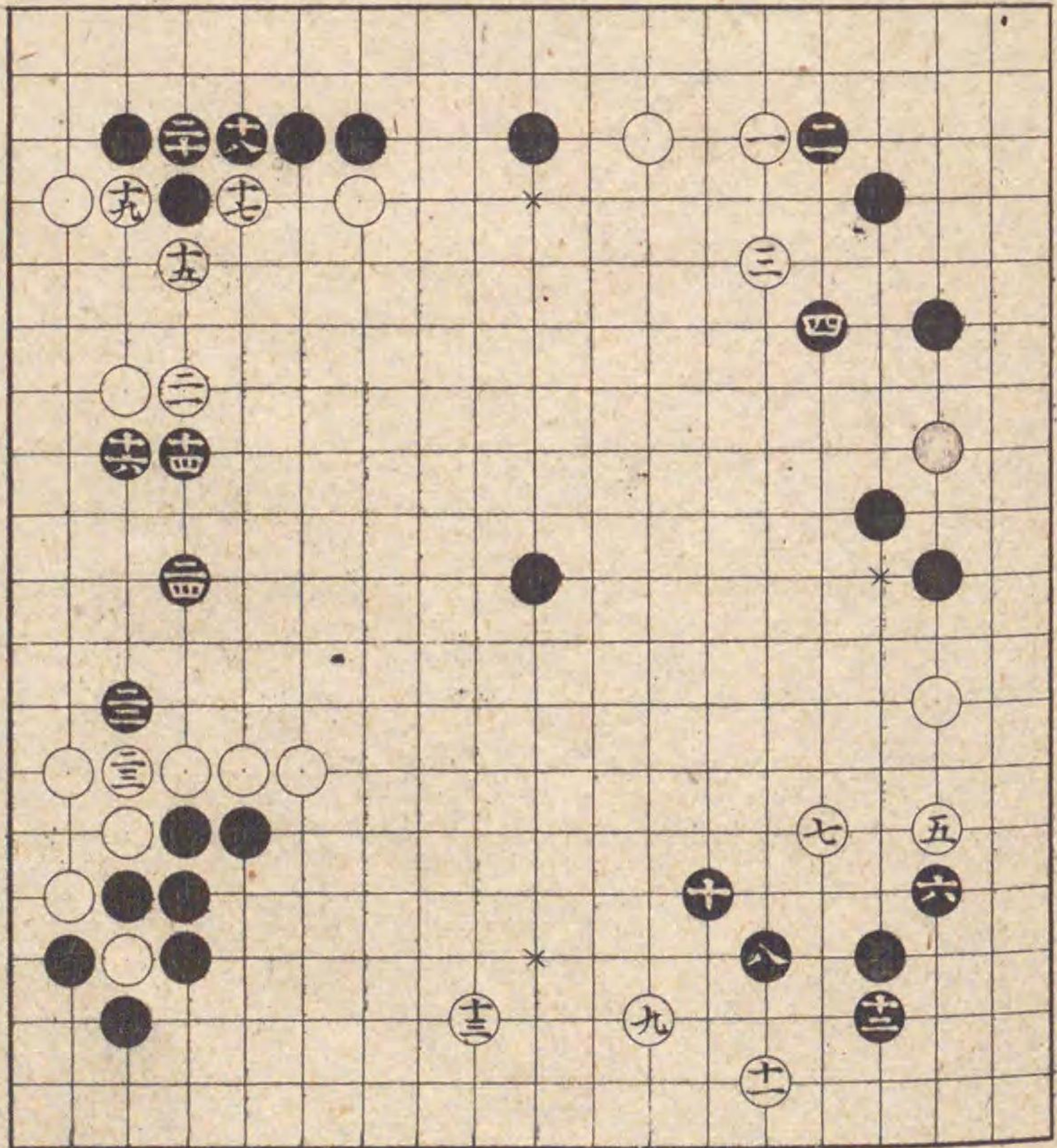
黒二八の手ふて白乃  
 二九へ打てもよと手  
 筋の次第我知らしむ  
 るため記之此石立紛  
 れたし



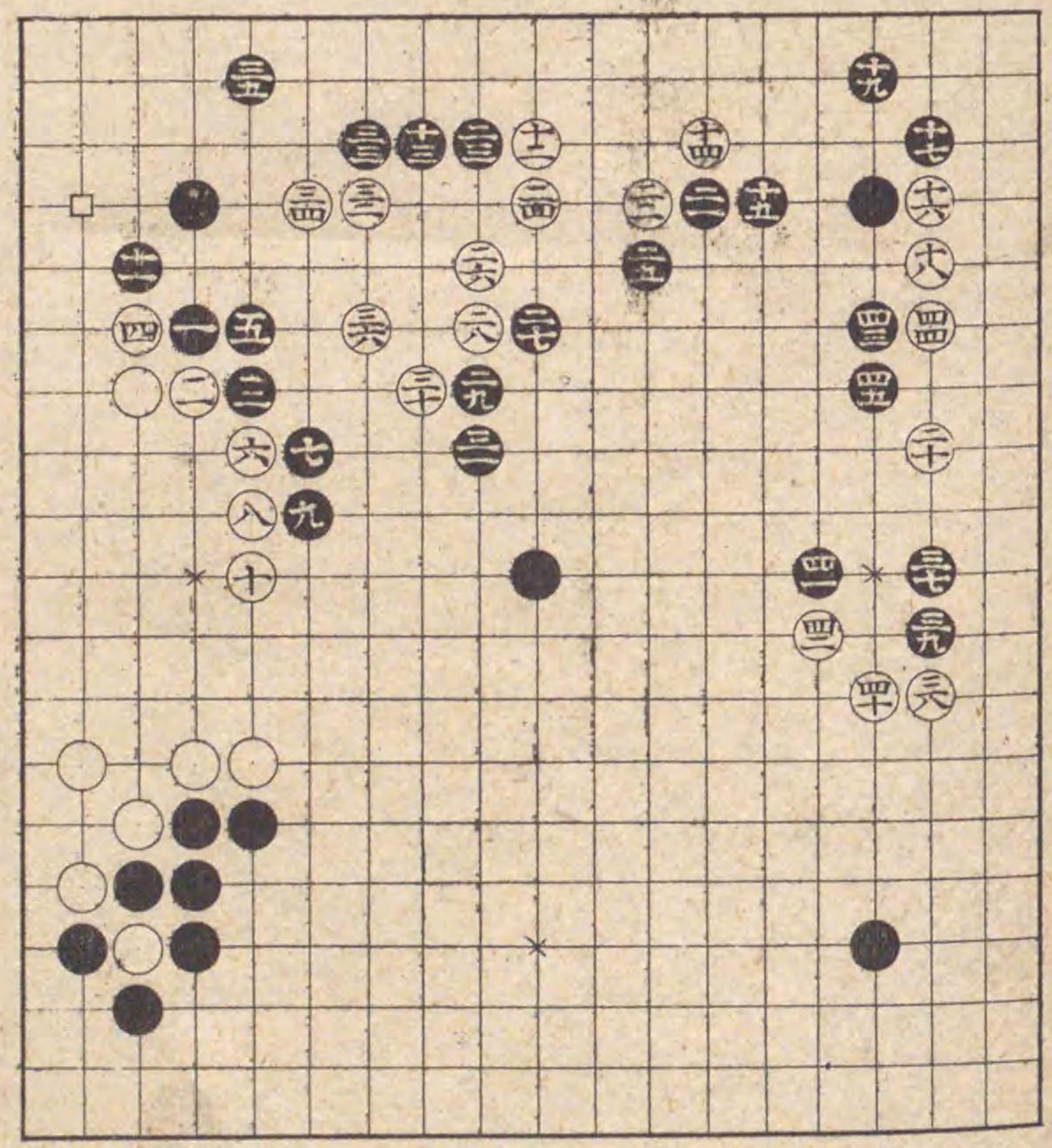
前番白十九より替る  
 二と詰白三と如斯打  
 と犯ハ引吉二十と打  
 二二と軽く打手談紛  
 れちく大位小打手筋  
 こ心得べし



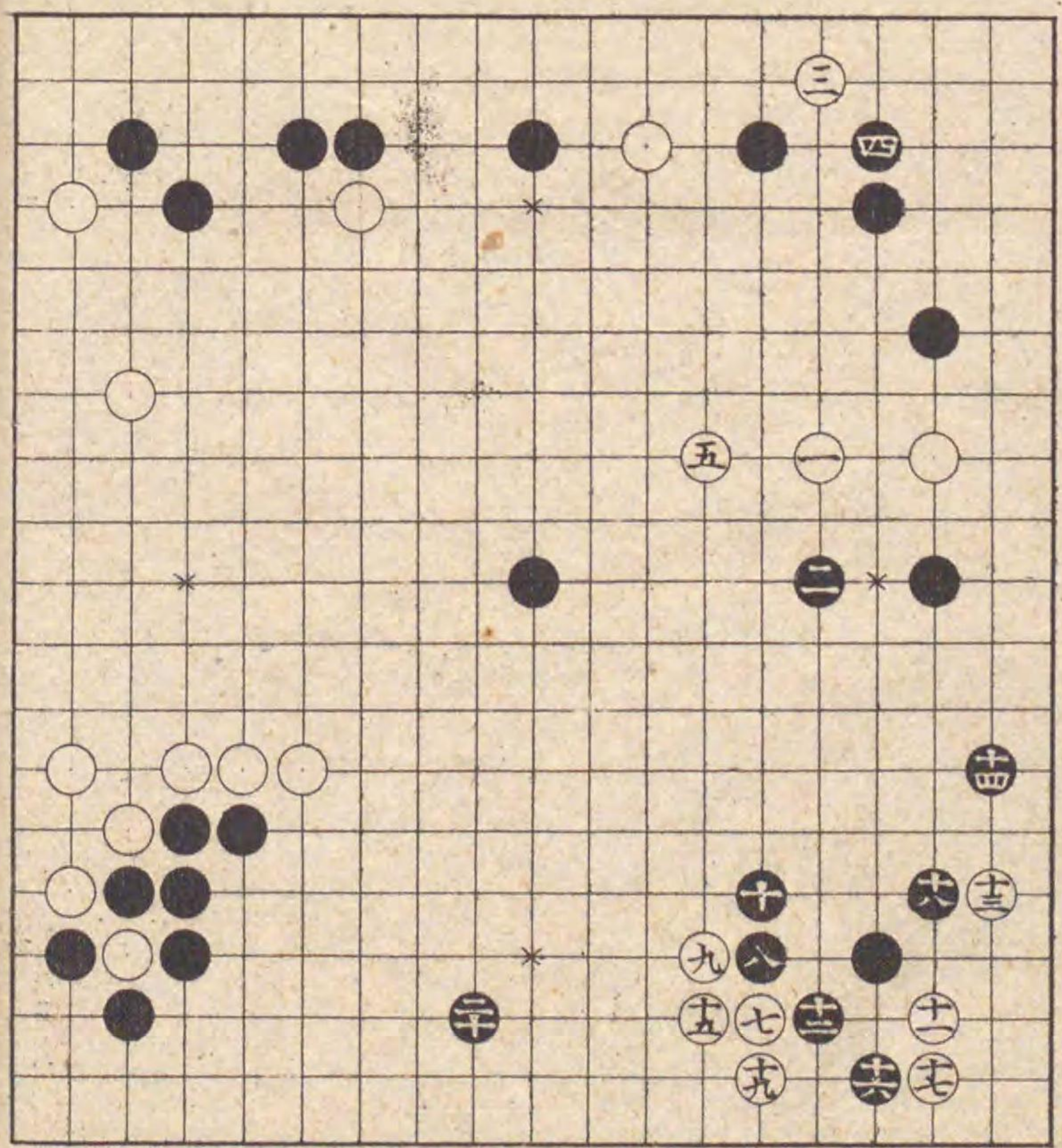
前番白なり替る  
 十四と打白軽く十五  
 と舟て打と犯如此軽  
 く十六と打心持よし  
 此替りも隨こ  
 二四吉



本番黒十二より替る  
 白六の手不て口印へ  
 打ハ黒八の処へ一間  
 飛ちり黒二三よしは  
 へある手筋也むす  
 べからば三九替り  
 次ふある也

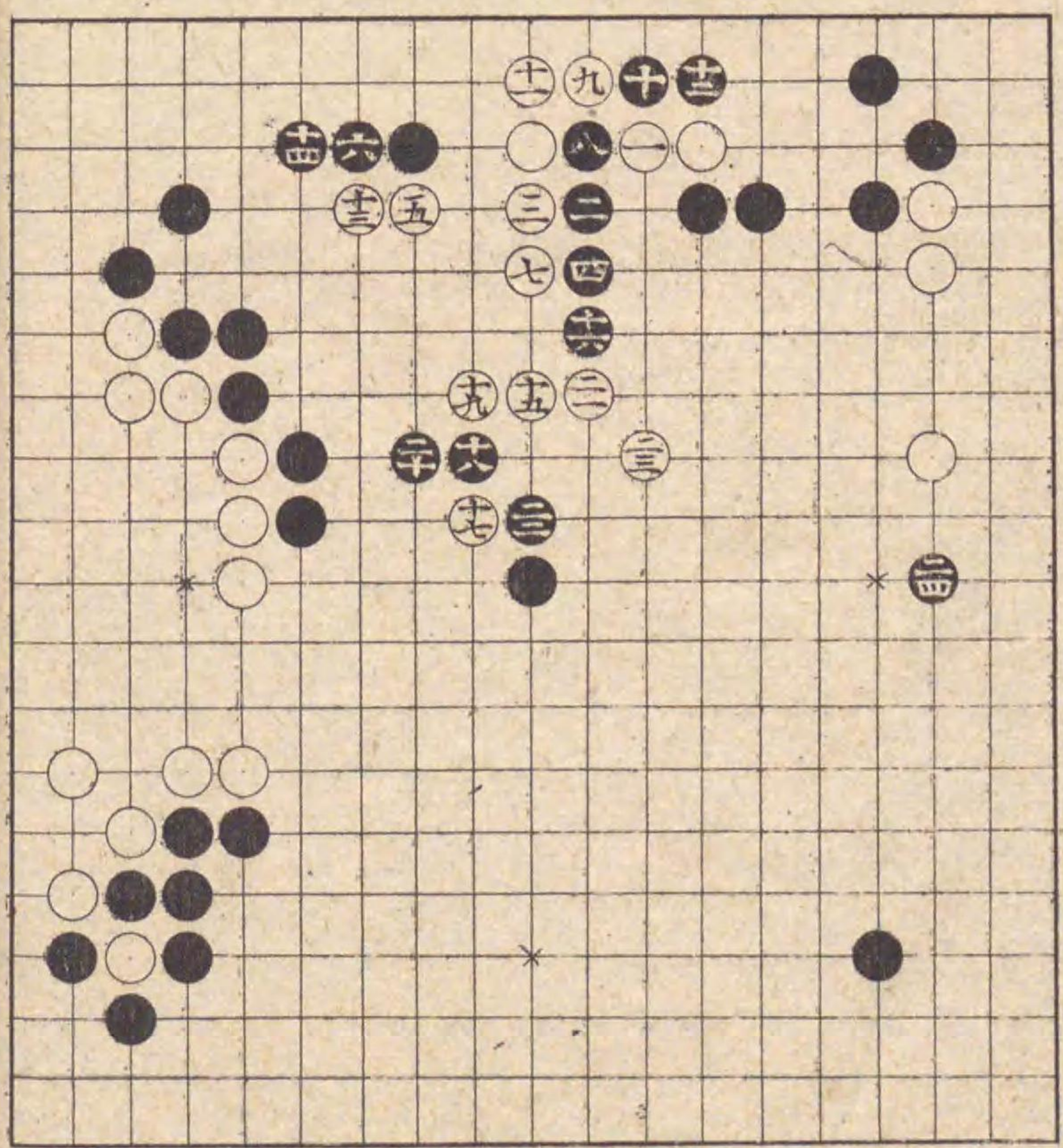


本番より一番目れ白  
 七より替る  
 十四乃手前のどく宜  
 ゆるすべからば此石  
 立いづれ乃白をせり  
 て打ても打能手筋を  
 り考へ見べし

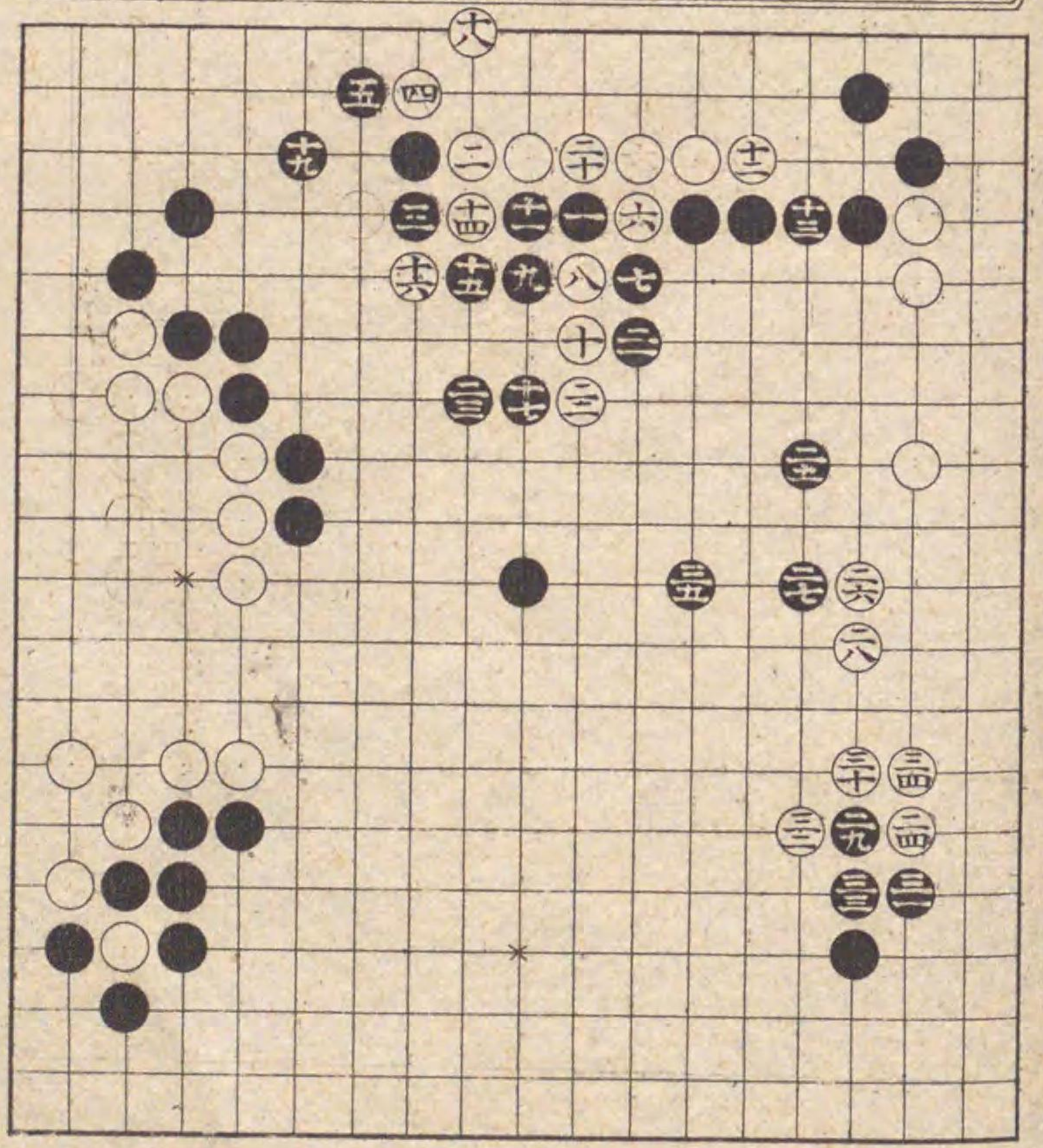




前番白二二より替る  
 白十七乃とまき手筋流  
 りへ如此打時十八吉  
 如是替増々よし



前番白三より替る  
 二と打二九舟て打手  
 談如前黒三五迄海り  
 吉此石立替如毎心勝  
 の形なり



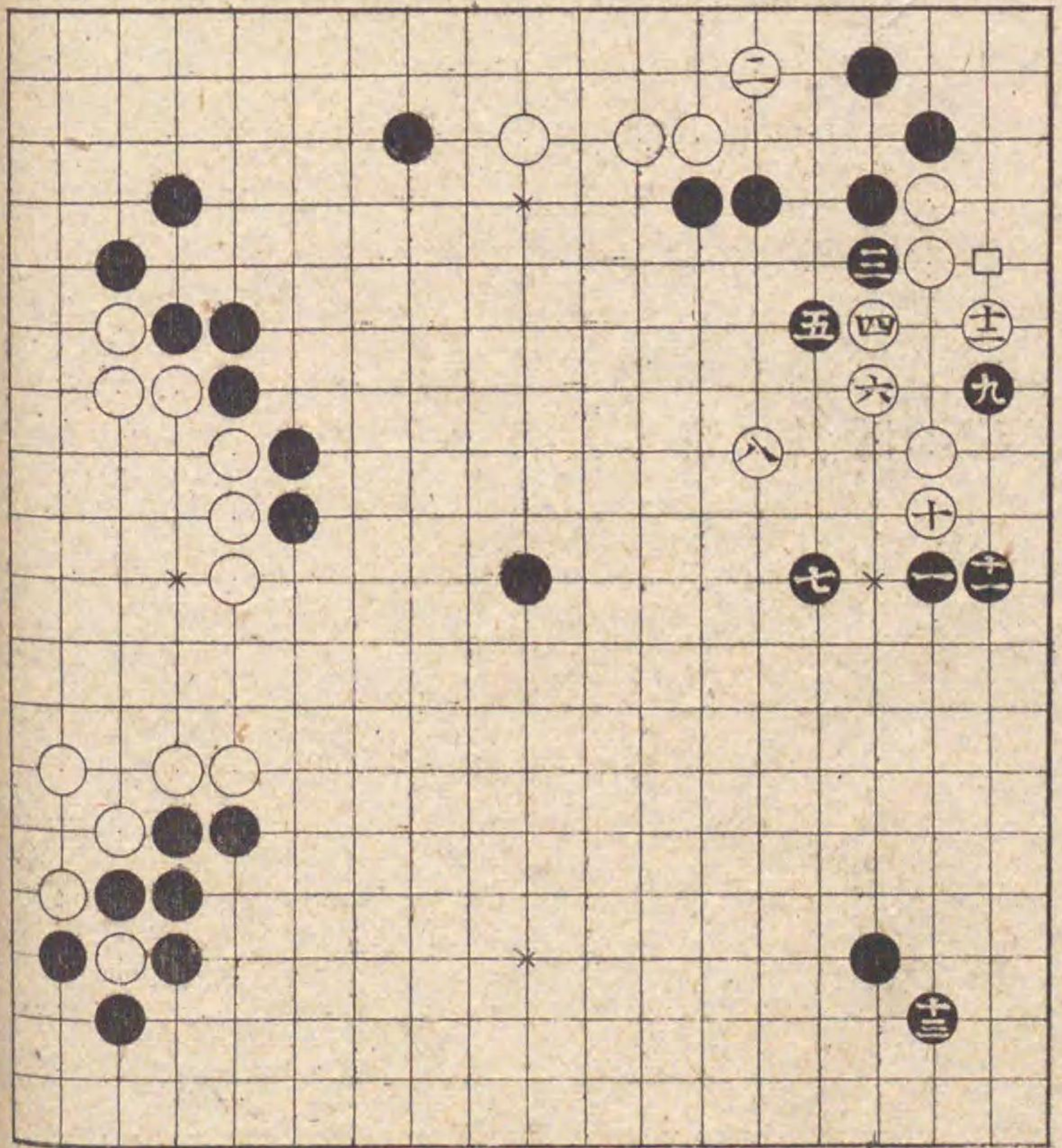
○置其處自在

五目置之部

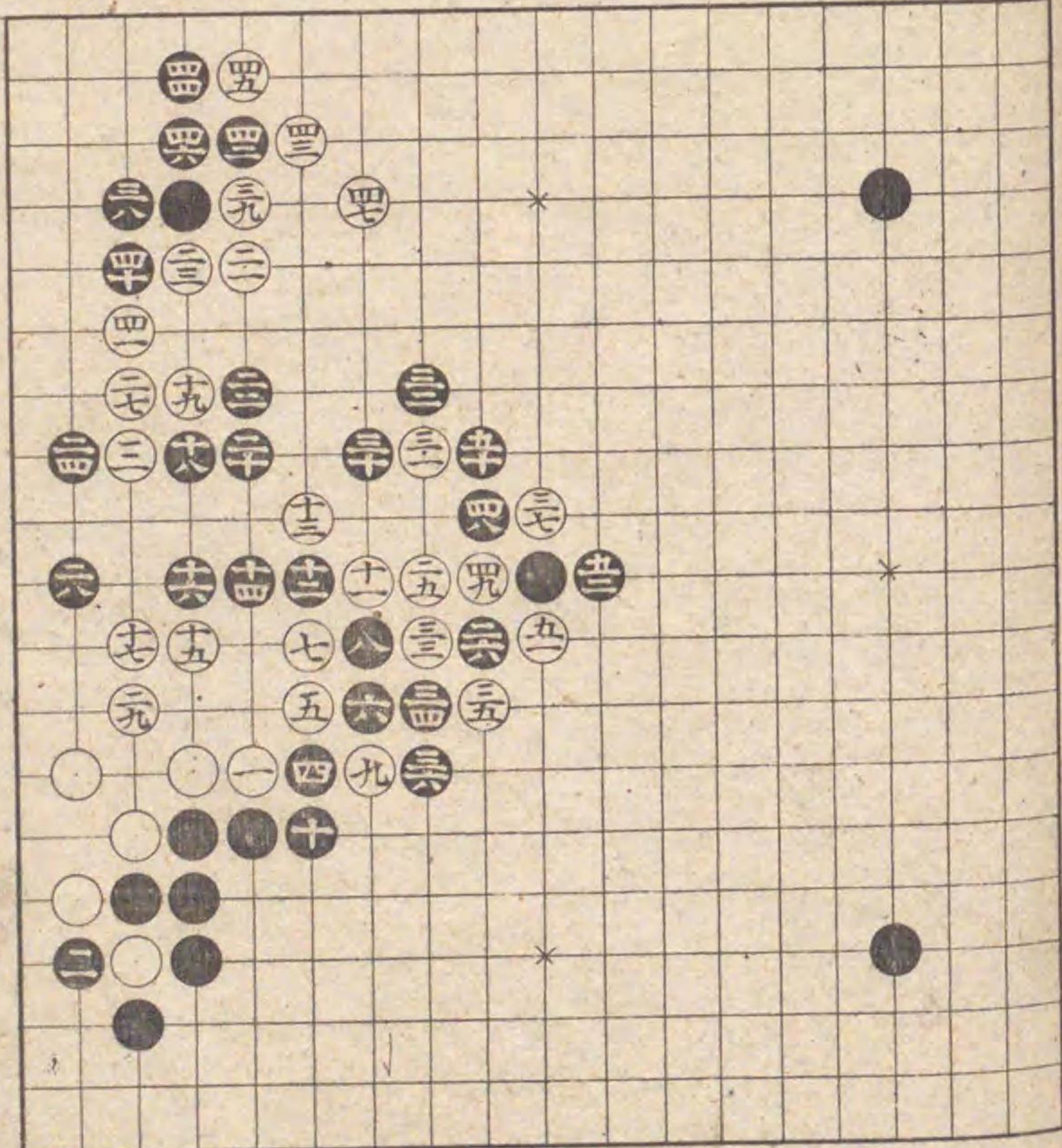
○十六

方圓書

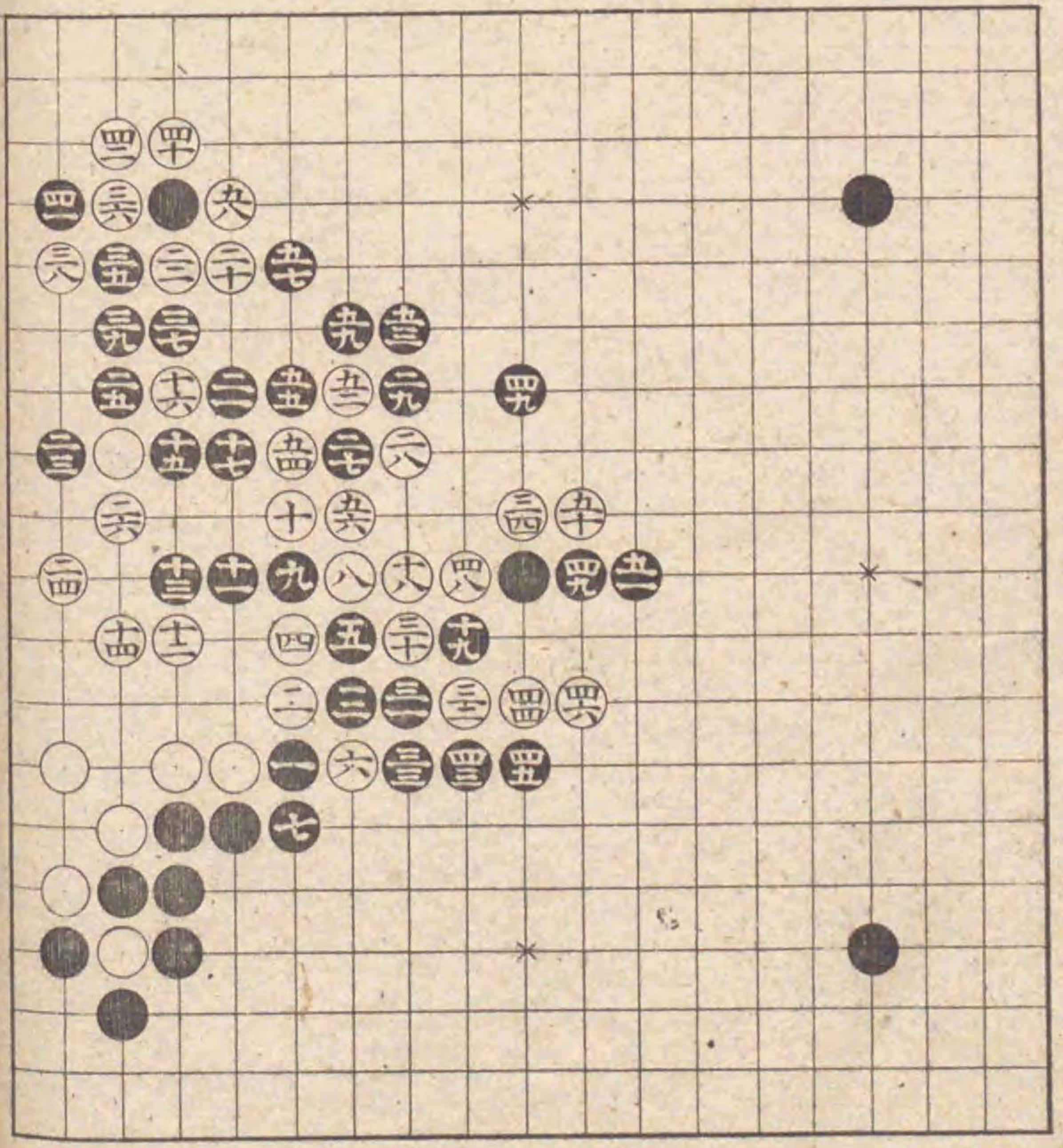
前番黒一と替る  
 黒十一乃手小て口印  
 江舟渡りても吉此替  
 りも紛れなし



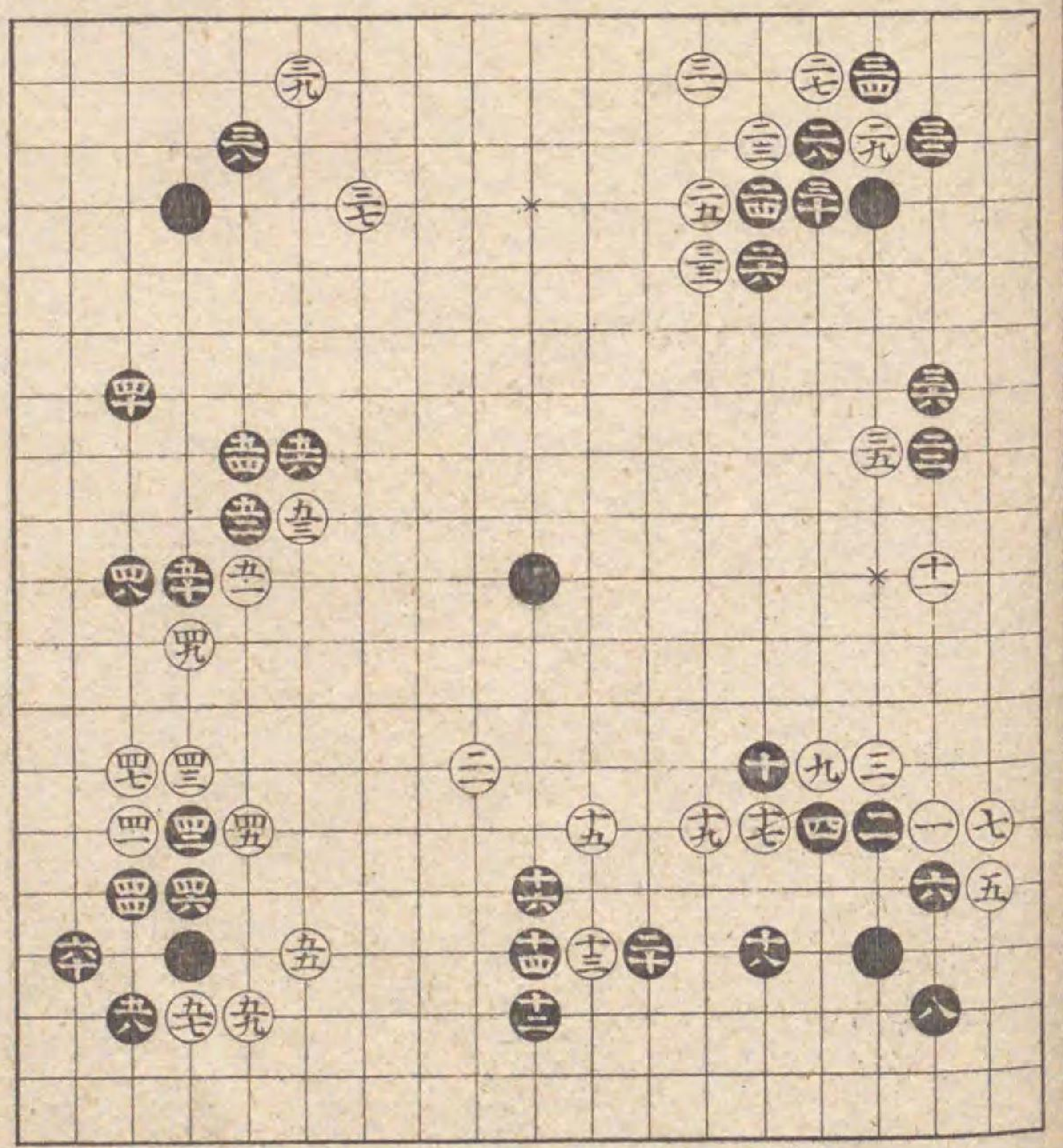
本番白十一よ替る  
 右二四ある手筋あり  
 心得へし四八打一目  
 捨如斯なりても黒堅  
 く打とし此石立入組  
 手筋ちれども替る古の  
 ため記之



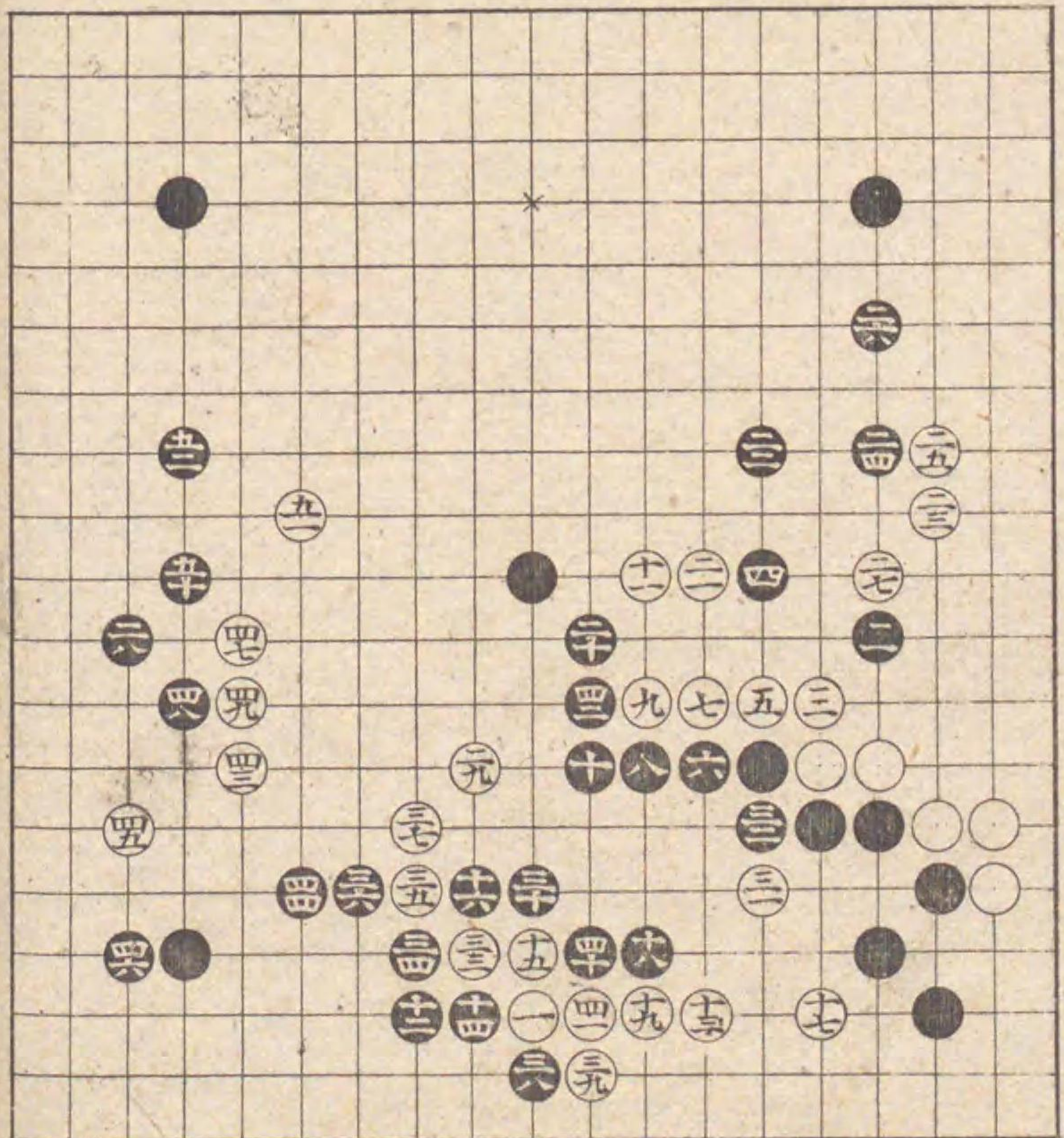
前番白二七より替る  
 此替り黒の趣向吉堅  
 くして一筋なれむ各  
 人上手といふとも手  
 談をし



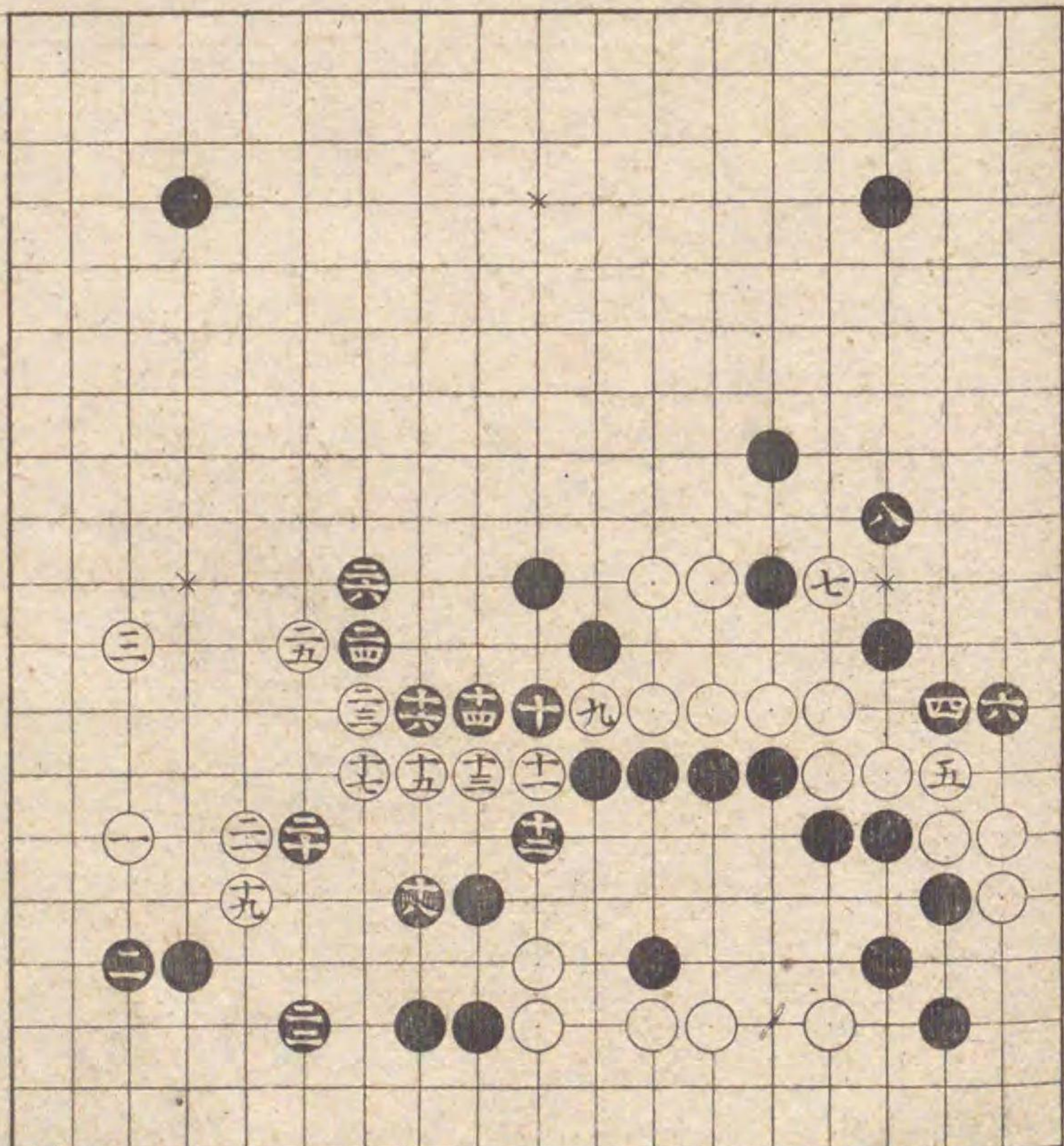
白七と打バ八と如是  
 打べし白の十一廣き  
 時ハ打込如斯打黒  
 五六の押厚手切ハ  
 あし心得べし六十  
 吉四方黒堅く白より  
 手談るし黒よりハ可  
 打手談所々有心得  
 べし



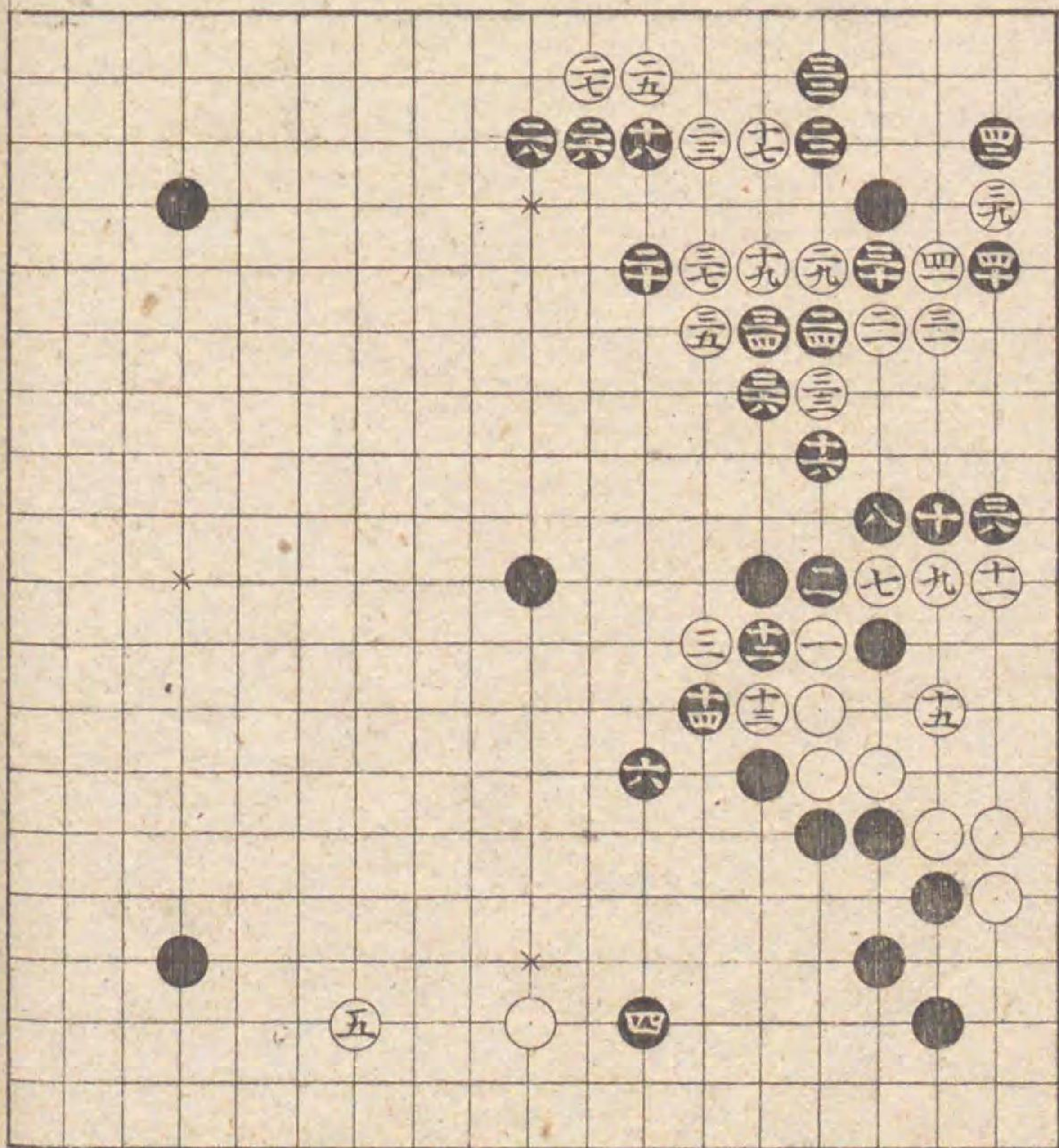
前番白十一とり替る  
 一と如是打とき二と  
 打と間々あり前ふも  
 記決宜き手筋は四四  
 堅くして白小闇きよ  
 し乍去白打手筋な起  
 時ハ堅過て悪し心得  
 べし此石立堅く紛れ  
 ちし  
 二四吉  
 二六吉



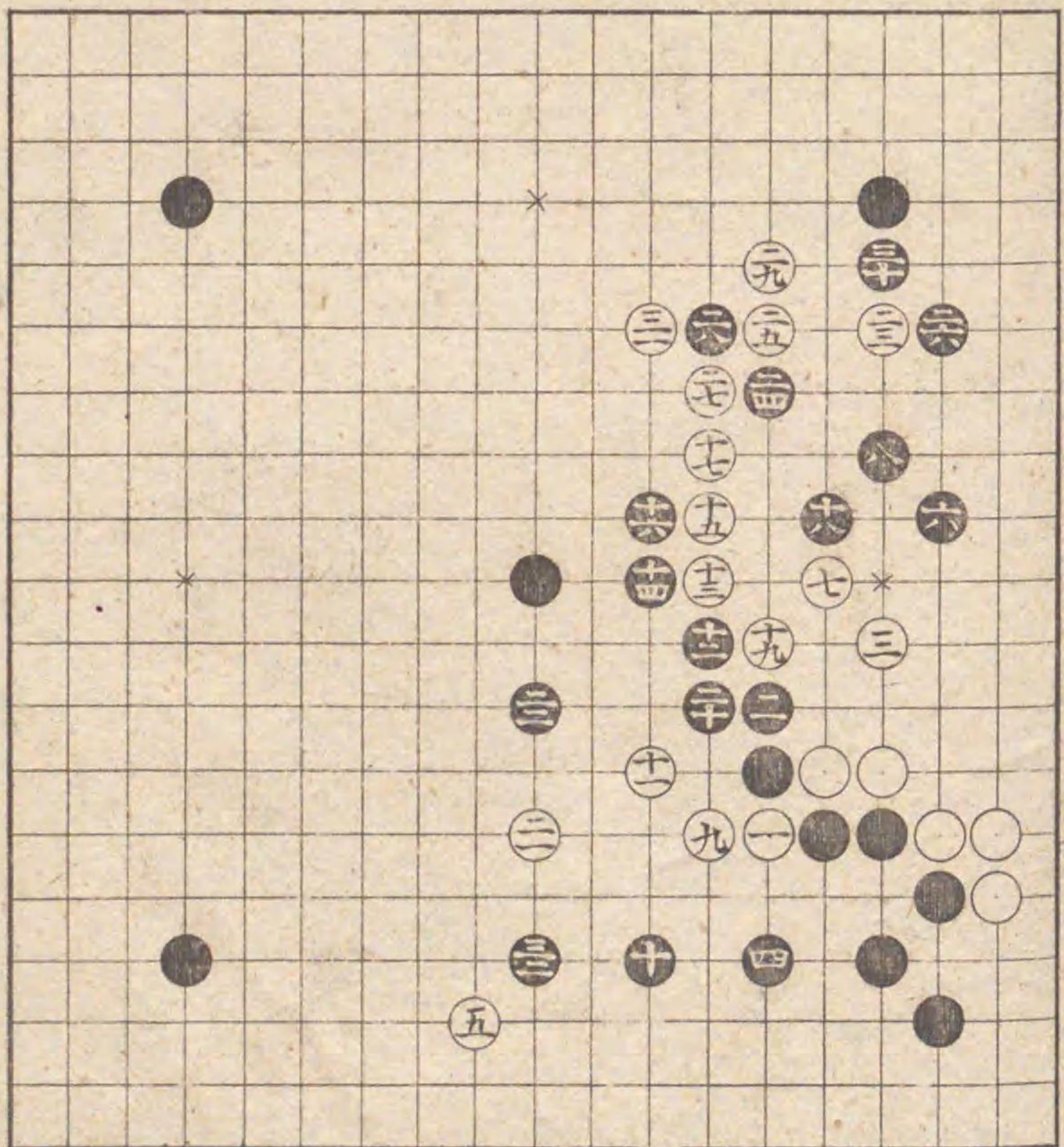
前番白二三とり替る  
 七と打ハ一間飛小打  
 置ちり心得べし常小  
 あり二十と打手談毎  
 度あるはべのら此  
 石立紛れれし



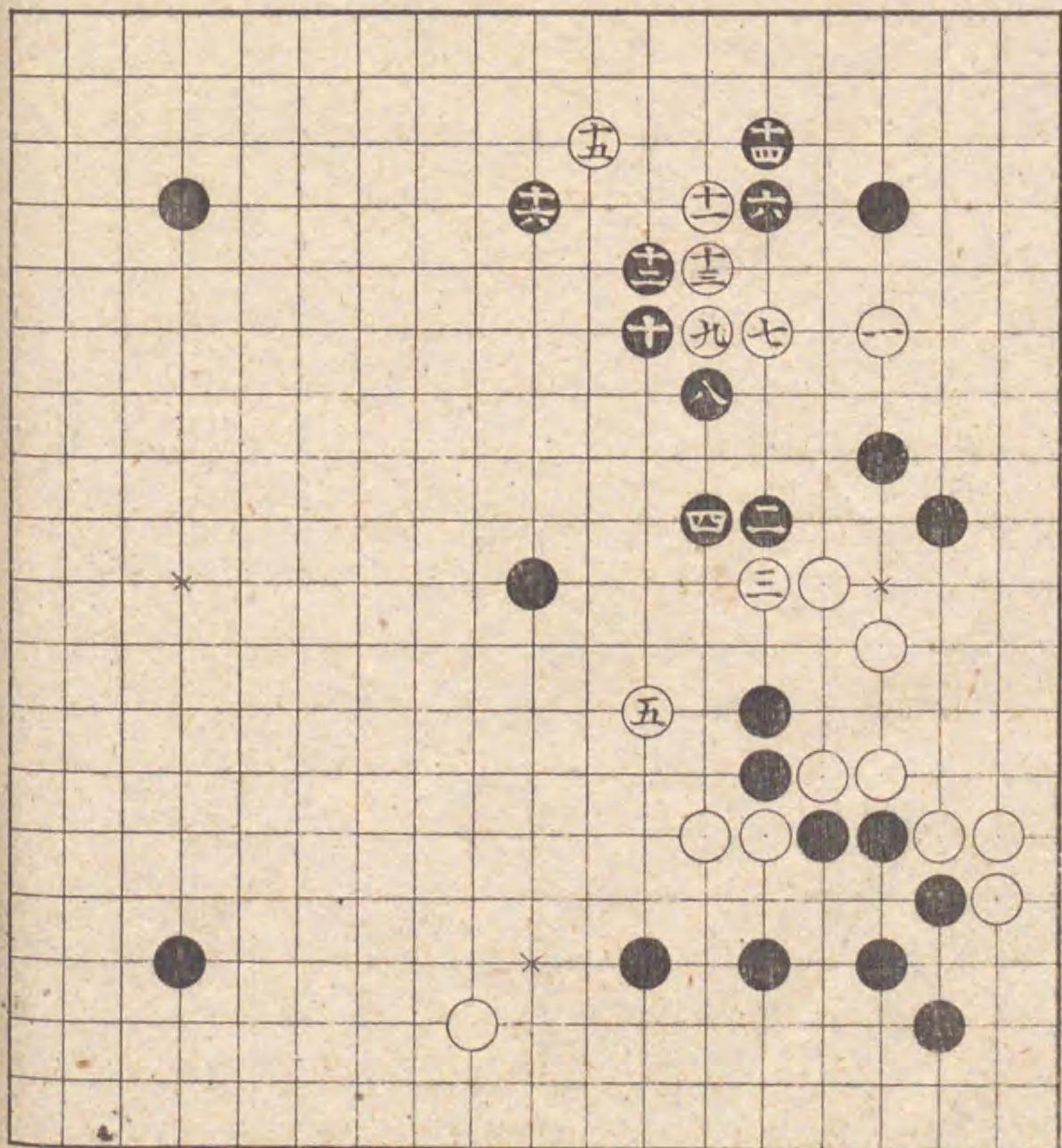
本番より一番目乃白  
五より替る  
此替り大小吉  
六吉  
十吉  
三二吉



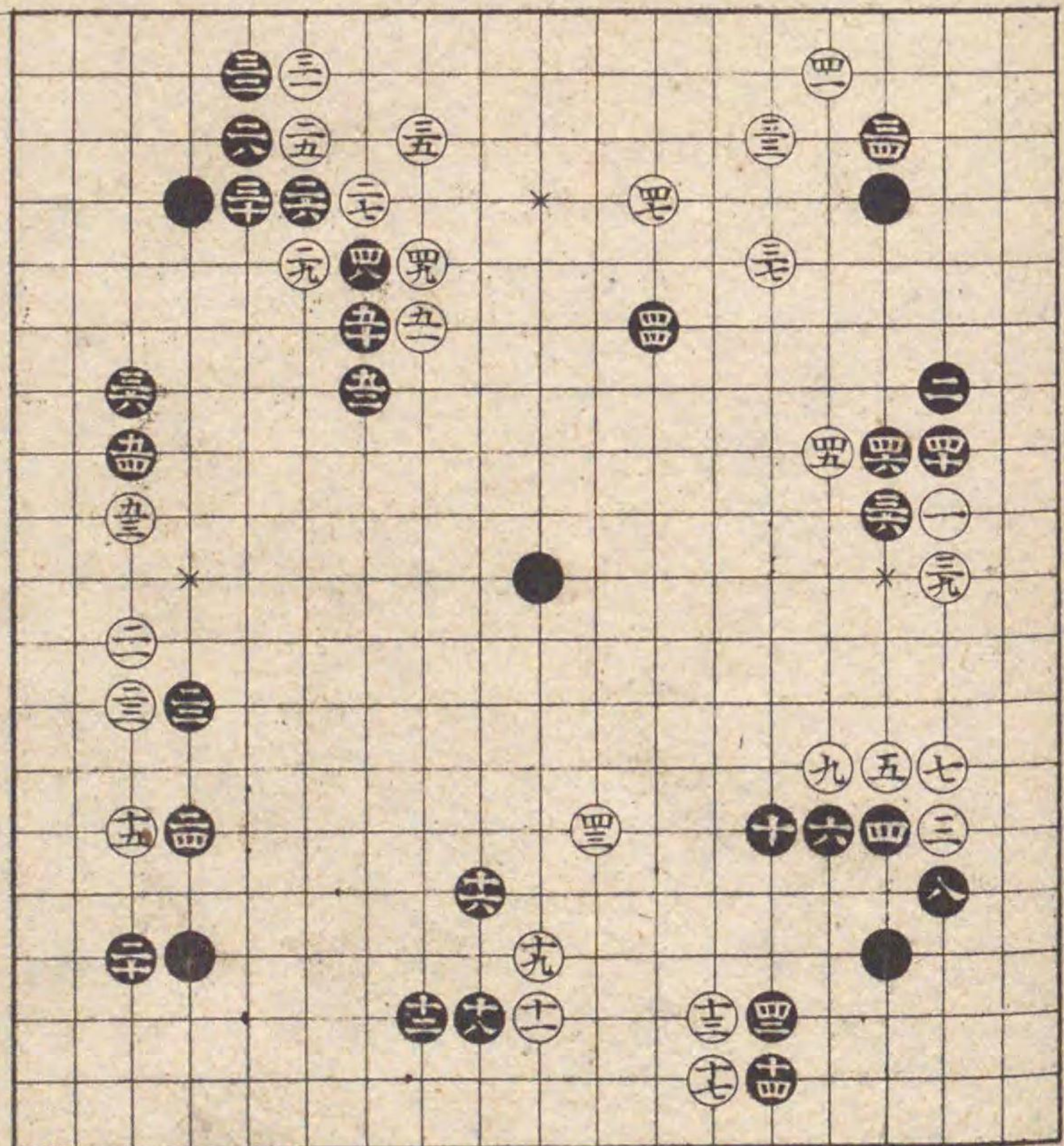
本番白十一より替る  
二四吉白二五乃と死  
二六吉二八の処へも  
ねて打ても吉白面白  
からば二八と切三十  
と去る手筋二四と  
打し心持之先手取趣  
向大小吉



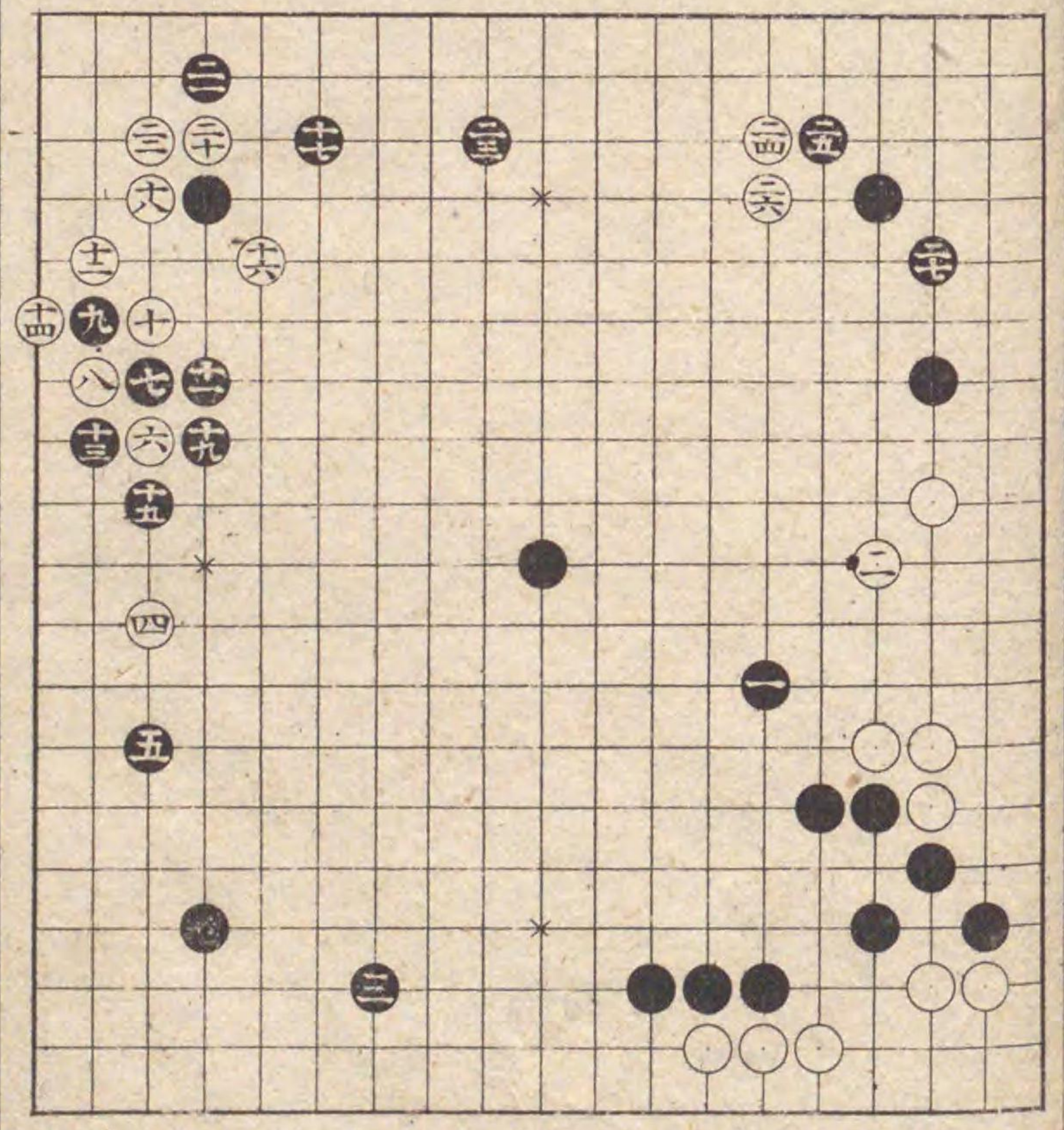
前番白十一より替る  
如是ちりても黒打よ  
し見合二目出る手談  
もあり心得へ  
十六吉



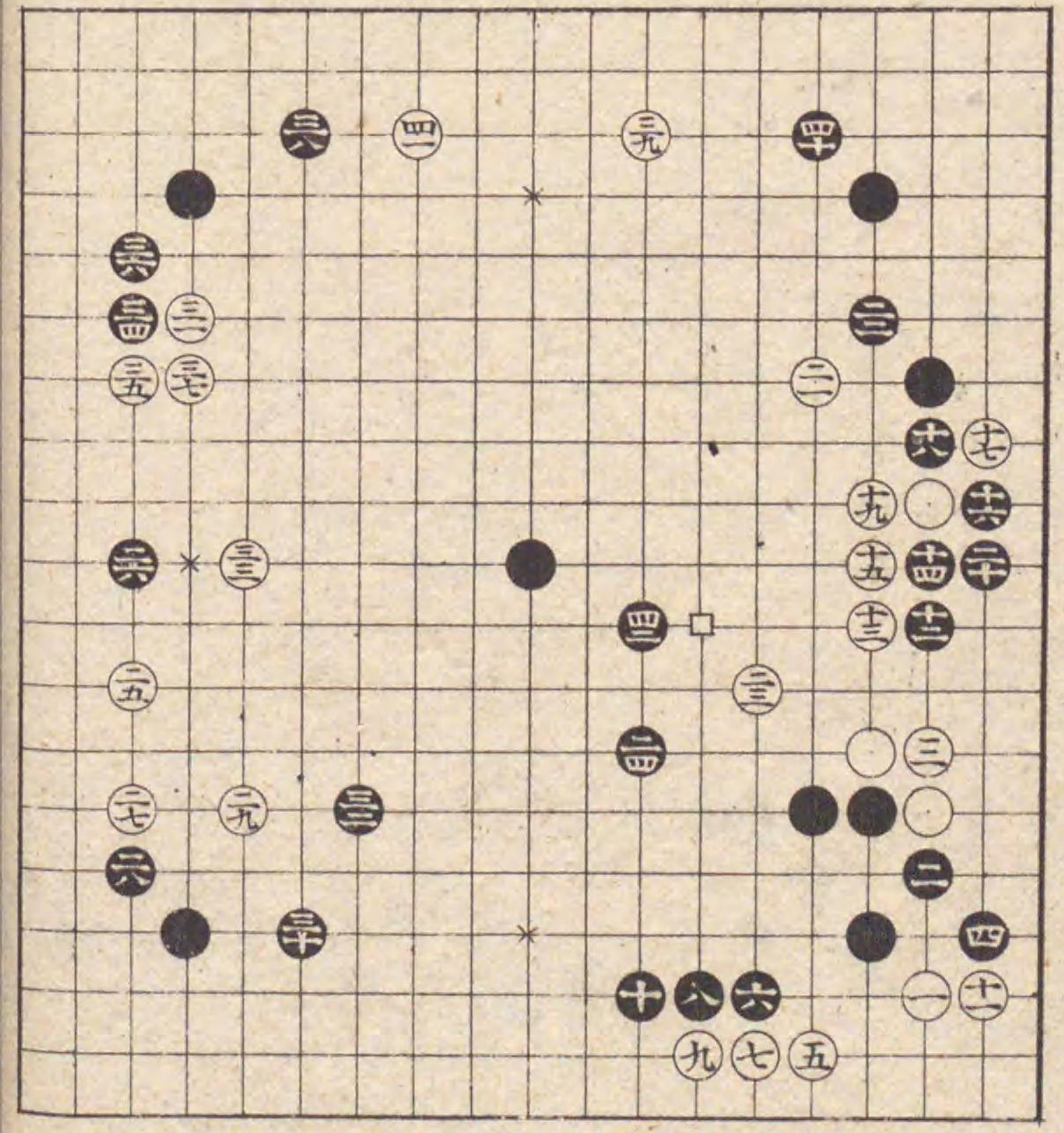
黒十四吉十六とある  
故二二二四と位を取  
こ心得見るべし四四  
と打四八と切手談黒  
吉此石立堅く如先大  
小吉



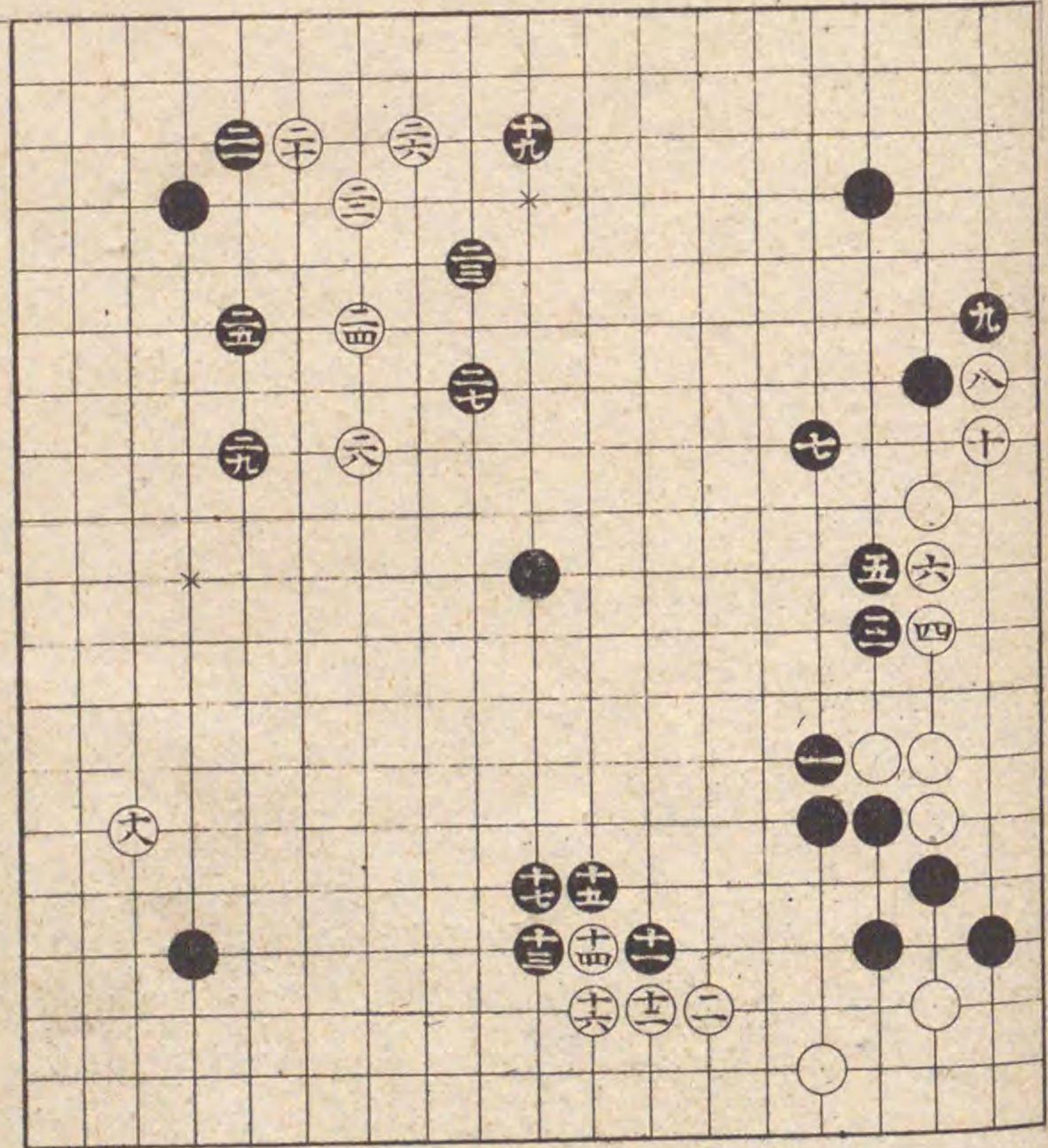
前番黒十二の手より  
替る  
一と如此打てもよし  
七の手替り堅くして  
よし此石立如前紛れ  
なし



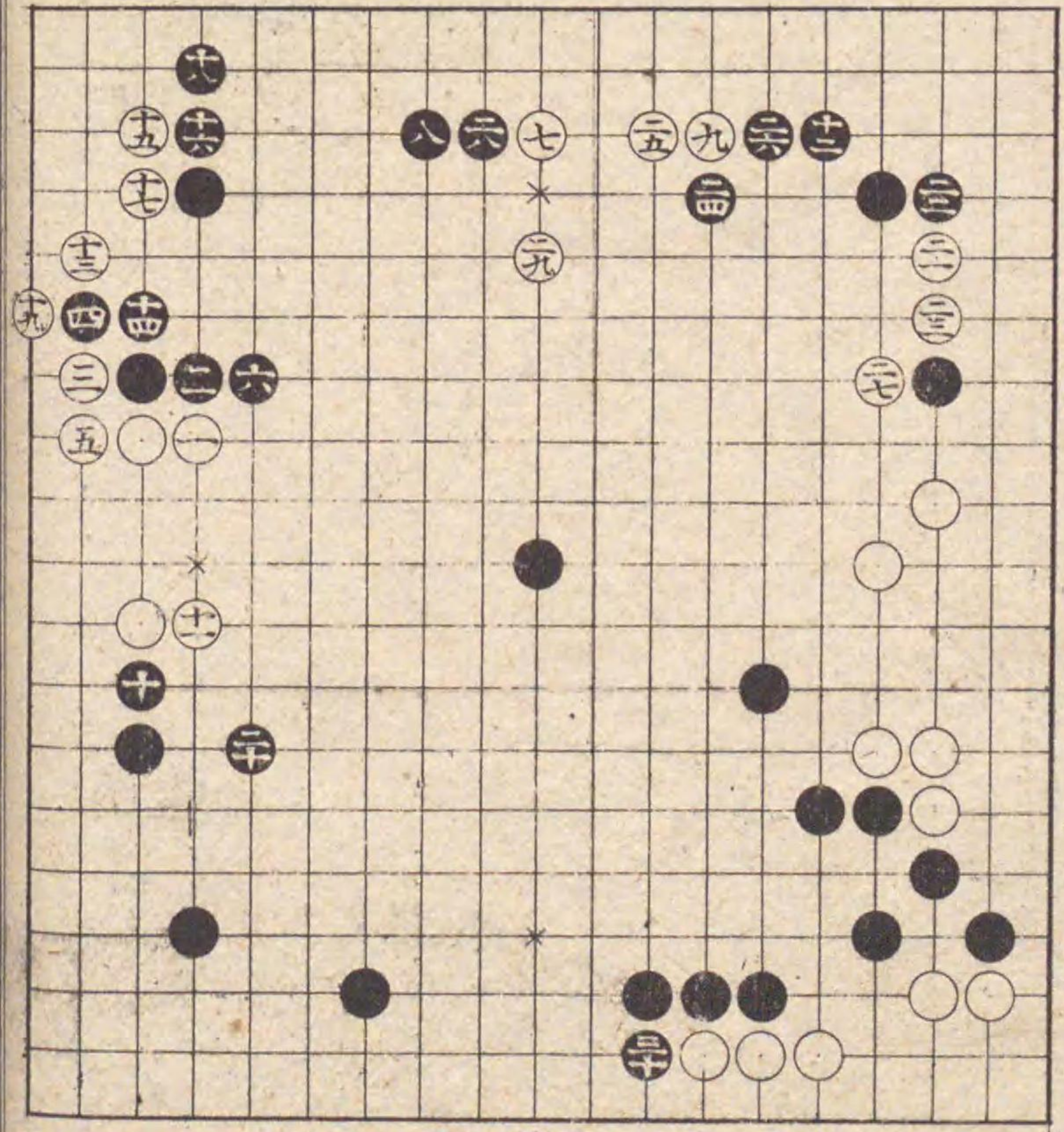
前番白七の手より替  
る  
二四如此亦ても口印  
に挂馬に打ても吉如  
此大位小打趣向也へ  
二六乃一目捨打なり  
黒打能白つぢへふる  
り考へ見るべし



本番より一番目の黒  
六より替る  
此石立如先大位なり  
あゝろへ見るべし九  
のあたりを白打時軽  
く上より打べし  
三吉  
十一吉

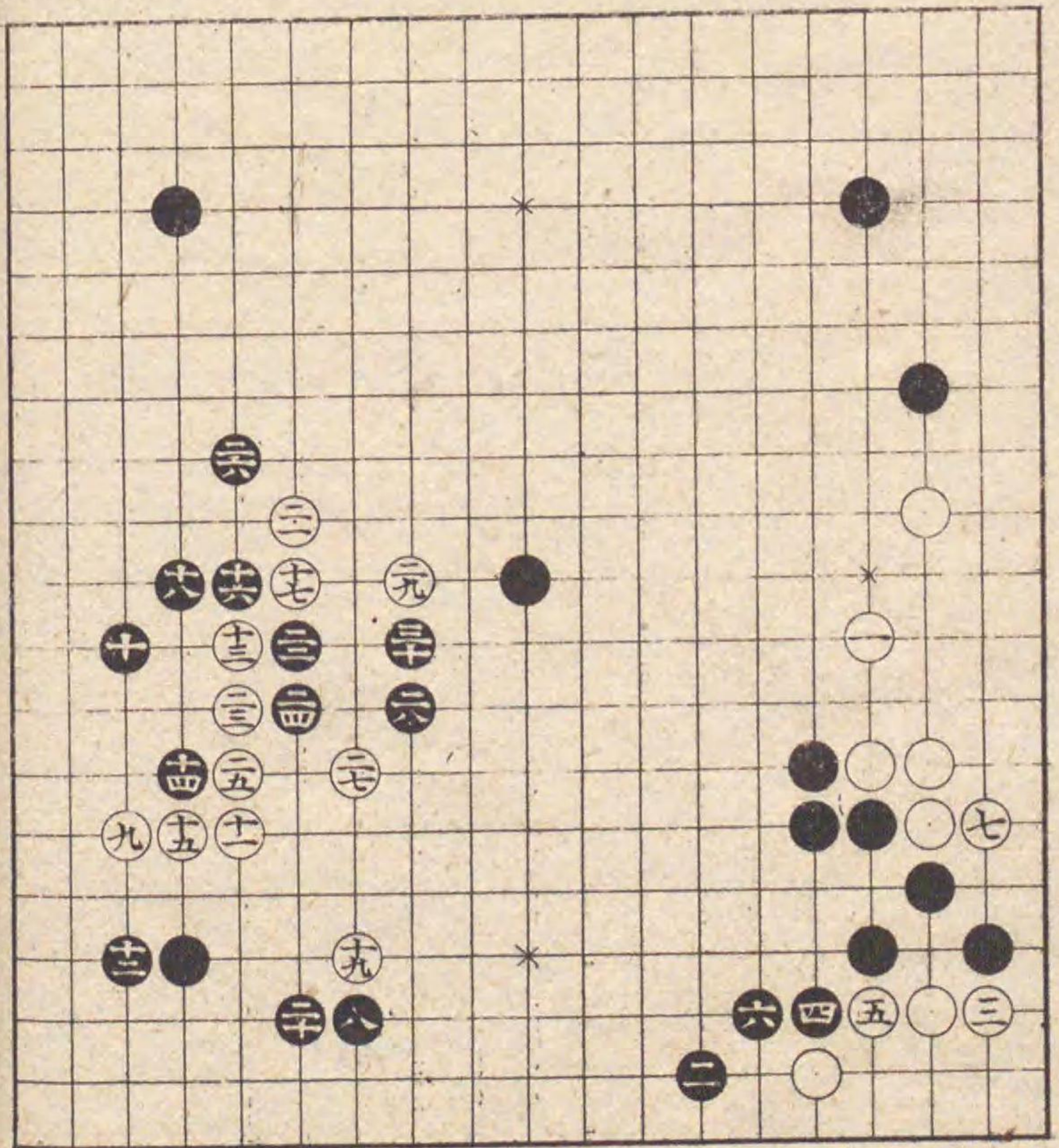


前番白八の手より替  
る  
二四舟二六しほり一  
目捨て打軽くしてよ  
し

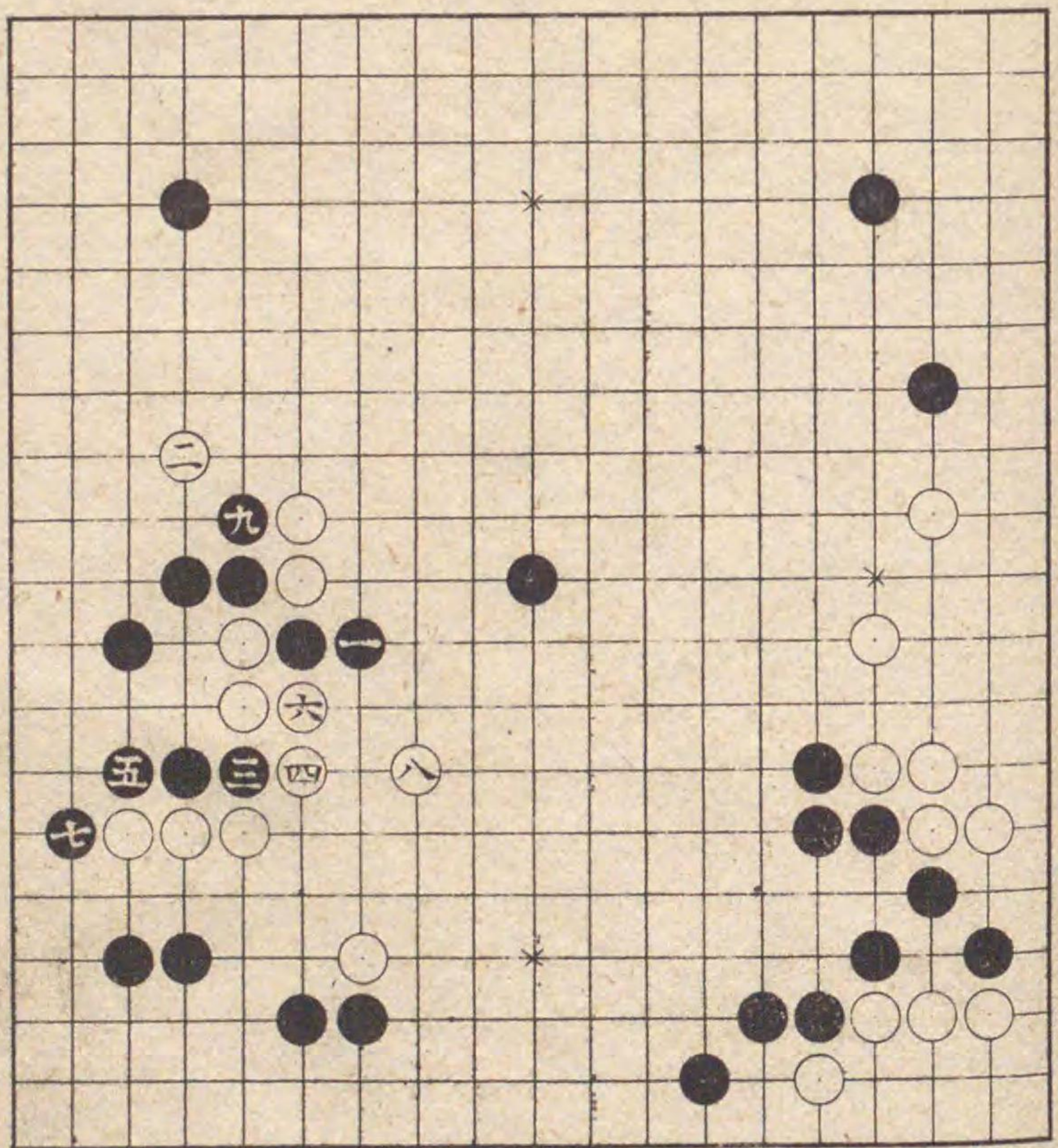




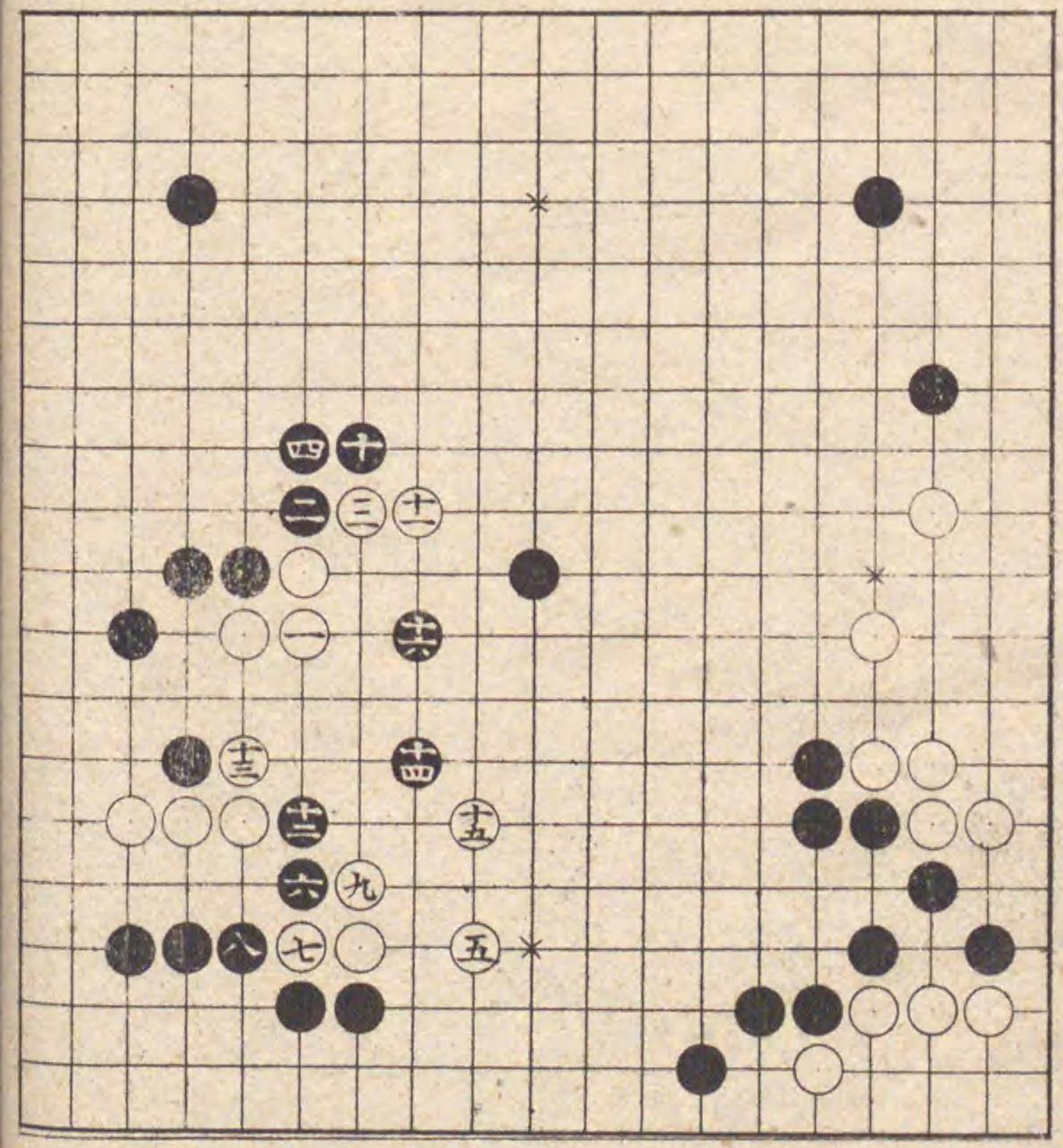
前番白二と替る  
 二の手よじ常小ある  
 手筋あり斯のどくち  
 りてハ黒大よこ



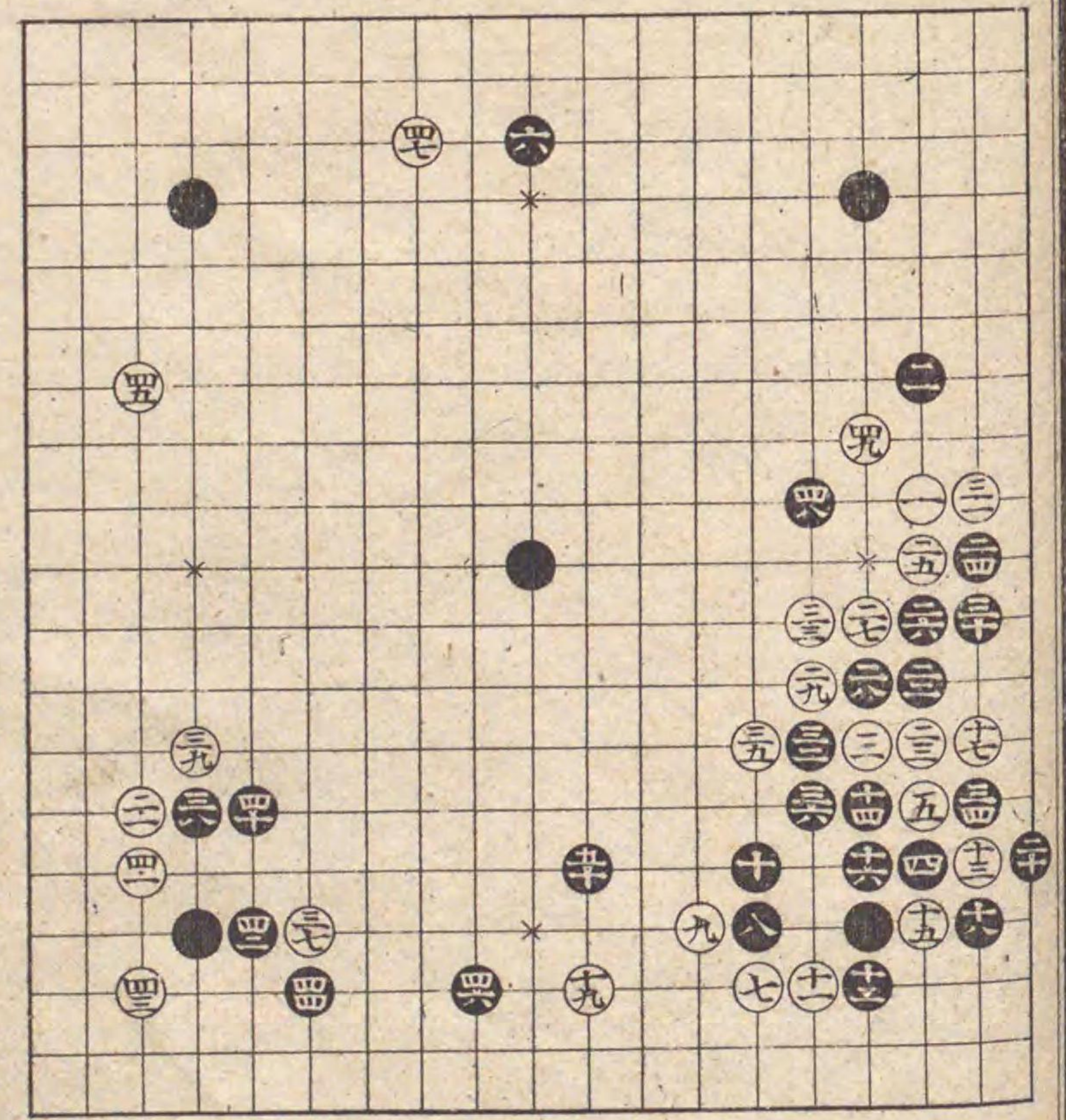
前番黒二四と替る  
 白二むりなり如是替  
 り猶々よこ



本番より五番目の白  
 二より替る  
 二とちねて四と打手  
 談手厚大位不成紛れ  
 ち



此石立左右乃白石味  
 び不宜黒打よし四八  
 と打五十と如是打手  
 筋至極吉



○置 甚 自 産

五 目 置 之 部

○ 廿 五 終 一 方 圓 書 房

此替り黒堅く紛れ  
 し二四の手左右の  
 海り打こ処ふらと  
 こ三六前ふ記し置通  
 り白二間飛時如是打  
 吉四十乃手至極宜間  
 々有手ちりゆるたべ  
 ららず

